

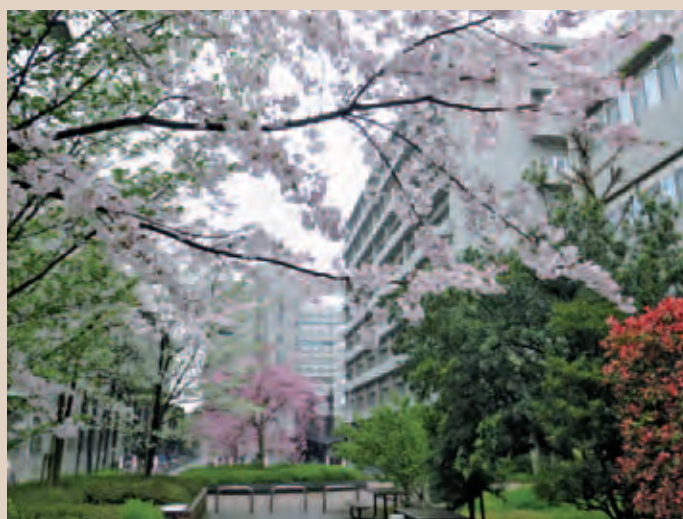
同窓会報



松山外環状線(自動車専用道)から石鎚山を望む



新しくなった大街道入口(一番町側)と市内電車



大学内の桜

愛媛大学法文学部同窓会事務局

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内 tel.089-917-6376 fax.089-917-6476 E-mail: aidai-houbun-dosokai@sings.jp
[PC サイト] <http://koyu.ehime-u.jp/houbun/blog/>

同窓会への寄付をお願いします！



法文学部同窓会は、みなさんが入学時に納めた同窓会費で運営されています。これは終身会費として1度納めればいいものです。したがって今まで寄付を募ることはありませんでした。

しかし、同窓会会報の充実、支部活動支援、法文学部支援、学生の留学・就職支援など同窓会活動の拡大により、必要経費が増大しています。

そこで、今年度より会員の皆様から寄付を募り、同窓会活動のより一層の発展および学生の留学・就職支援に活用したいと思います。

金 額：3,000円以上（3,000円以上であれば、いくらでも構いません）
目 的：同窓会活動の充実
法文学部学生への支援

ご賛同いただける方は、同封の振込用紙に必要事項をご記入の上、お近くの郵便局からお振込みください。（振込手数料はかかりません）

寄付を頂いた方は、来年度の会報にお名前を掲載させていただきます。匿名希望の方は、その旨を通信欄にご記入ください。なお、寄付金控除は受けられません。

愛媛大学法文学部同窓会 会長 小池 昭彦



御幸学生宿舎



提供講座授業風景（2016年）



第14回総会（2015年）

目 次



法文学部同窓会報
第21号

同窓会への寄付について	2
同窓会名簿の発行について	3
法文学部創立50周年	3
研究室紹介(社会科学・秋谷先生)	4
(人文学・中原先生)	5
いよいよ開催！えひめ国体・えひめ国体	6
瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会を通じた観光振興	8
退職された教員の方々	10
法文学部人事異動	12
理事会報告	13
提供講座・寄付科目 報告	14
提供講座 感想	15
一遍上人がみた鎌倉時代の経済	16

卒業生から	20
ホームカミングデイのお知らせ	22
EHIME UNIVERSITY NEWS	23
同期会情報提供制度	24
毛利修三氏 愛媛県議会議長に就任	25
サークル紹介	26
平成28年度卒業記念祝賀会	27
支部だより	28
支部紹介(関西にきたつ会)	30
パズル・感想・編集後記	32

題字：柴田 祐昭
 (文理学部人文学科史学専攻・第8回卒)
 [明楽寺住職・愛媛県美術会常任評議員・
 県展審査員・毎日書道展審査員]

同窓会名簿(冊子)発行に向けての調査にご協力ください。

法文学部同窓会では、同窓会員の現状を把握するために、ご連絡いただいた住所などを日々更新し、名簿データの充実に努めています。

しかし個人情報保護法施行以降、会員の住所等の情報を入手することが難しくなり、特に20～30代の会員においては、大半が連絡先を把握できていないのが現状です。

また、本部・支部総会への出席者が年々減少しており、このままでは関東・関西・広島・四国の4支部の活動が維持できなくなる可能性があります。

同期生や先輩・後輩と連絡を取り合うことにより、同窓生同士の交流を活発に行っていただきたいと思います。冊子の名簿は2002(平成14)年を最後に15年間発行しておりません。

そこで今回、冊子名簿の発行の可否も含めて、会員の皆様の現状について調査を行います。返信はがきの調査票を同封いたしますので、内容を確認した上で必要事項をご記入いただき、同封の目隠しシールを貼りつけてご返送ください。なお、お送りいただいた個人情報は同窓会事務局が適切に管理し、名簿データの更新および冊子名簿の発行にのみ使用いたします。

今後とも、愛媛大学法文学部同窓会へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

愛媛大学法文学部同窓会 会長 小池 昭彦



法文学部は来年、創立50周年を迎えます！

◆法文学部のあゆみ

- 1919(大正 8) 旧制松山高等学校開校
- 1949(昭和24) 愛媛大学開学(文理学部人文学科)
- 1968(昭和43) 法文学部を設置(文理学部人文学科を改組、法学科・文学科の2学科)
- 1973(昭和48) 法文学専攻科(法学専攻・文学専攻)設置
- 1979(昭和54) 法学科に夜間主コースを設置(その後各学科へ拡大)
- 1981(昭和56) 経済学科を設置(3学科)
- 大学院法学研究科修士課程を設置
- 1996(平成 8) 総合政策学科・人文学科の2学科へ改組
- 1998(平成10) 大学院法文学研究科修士課程(総合政策専攻・人文科学専攻)設置
- 2016(平成28) 人文社会科学の1学科へ改組(「法学・政策学」「グローバル・スタディーズ」「人文学」の3履修コース)
- 2018(平成30) 法文学部創立50周年

法文学部創立50周年記念事業(2017年9月現在)

1. 愛媛大学法文学部創立50周年記念式典・祝賀会
 日時：2018(平成30)年11月11日(日)(時間は未定)
 場所：未定(松山市内のホテルを予定)
2. 現役学生中心の創立50周年記念イベント
 開催できるかどうかを含めて学生たちによって検討中。来年度中にいくつかのイベントを開催する可能性もあり。卒業生の皆様にご協力をお願いすることがあるかも。
3. 法文学部マスコットキャラクターの制作
 法文学部の教職員と学生からアイデアを公募中。2017年末までに決定予定。
4. 創立50周年記念品の制作
 記念式典・祝賀会出席者に配付予定(中身はお楽しみに)。
5. 『法文学部創立50周年記念誌』の発行

※『法文学部創立50周年記念誌』へ掲載する写真等の資料を同窓会員(卒業生)から募集します。
 (詳細は同封の資料をご覧ください)

Photograph around Campus



正門前(松山教育研修センター(左)と松山赤十字病院)



正門・図書館とソメイヨシノ



共通講義棟B(旧法文学部講義棟)と枝垂れ桜
 同窓会名簿の発行について ● 3

社会科学講座

秋谷 裕幸教授

中国言語文化

Q. どういった研究をされていますか？

A. 中国の福建省や浙江省の方言を研究しています。音韻史（発音の歴史）が専門で、年に5～6回は調査のため中国に行っています。



Q. 音韻史研究の面白さは？

A. 時間を過去に遡るだけ遡って、そこから現在の発音がどのようにして成立したのか、その波瀾万丈の歴史を明らかにすることでしょうか。福建省や浙江省の方言は古い言語特徴をたくさん持っているのが興味深いです。例えば「斧」はほとんどすべての現代中国語方言でfuのように、「f」の音節頭子音を持っていますが、福建省の方言ではpuのように「p」を持っています。歴史的に古いのは「p」のほうです。このような古風な特徴が福建省や浙江省の方言には数多く観察されます。



著書

Q. 授業やゼミの様子は？

A. 授業では、現代の中国事情などを教えています。昨年度のゼミ生は演習論文で人口政策、民族問題、格差問題、対アフリカ経済援助、台湾の総統選挙などをテーマに採り上げました。過去には中国に留学した学生もいましたね。もうちょっと中国語に興味を持ってくれるとうれしいんですけどね。

Q. ゼミの思い出は？

A. うちのゼミはコンパ中心で、2か月に1回ぐらいはやっていますね。学内にいるときはまた違った表情を見られるので楽しいですよ。



卒業式にて (2017.3.24)

Q. 休日の過ごし方は？

A. 映画オヤジなので、年30～50本観ています。また2012年からマラソンを始めました。松山にいるときにはほぼ毎朝4時に起きて、自宅から城山公園を回るコースで10～14km走っています。週末には堀江、北条方面まで28km（マラソンの3分の2）走ることもあります。月間走行距離は200～300kmといった感じです。おかげで体重が76kgから60kgになり、体調もいいです。きっと昔の学生は、痩せた私に驚愕するでしょうね(笑)。

Q. マラソンの思い出は？

A. 2013年10月に旅行がてら沖縄の伊平屋ムーンライトマラソン（ハーフマラソン）に出場して完走したときは感動しました。まさか自分が21km走りきれるとは思いませんでした。愛媛マラソンも2回走っています。いつかウルトラマラソン(100km)にも挑戦したいですね。特に四万十川ウルトラマラソンはぜひ一度走ってみたいです。



ベアリス・30km in 熊谷・立正大にて

Q. 今後の展望は？

A. 愛大に赴任したのは1994年4月で、退職まで残すところ11年となりました。早いものです。そろそろ店じまいです。11年間のうちに「これを棺桶に入れてくれ。これだけでいい」と言えるような著書をもにしたいですね。じゃないと、文字通り死ぬに死にきれないですから。

Q. 卒業生へのメッセージをお願いします。

A. 「逃げない、あきらめない、言い訳をしない。」もちろんすぐくむずかしいんですけどね。

(インタビュー 小林紀子)

人文学講座

中原 ゆかり教授

文化人類学・音楽人類学

Q. 文化人類学の面白さは？

A. これまで知らなかった世界を知ることや、自分たちの日常的な思い込みを壊していくこと、かな。混沌として、こうと言い切れないところを、実際に自分の目で見て対話をしながら、調べ、考えていく過程が面白いですね。世界はいつも動いていますから。ちょっと前までは、文化の理解というと、人を知る背景に文化があるというようなところがありましたが、そういう時代はもう終わったように思います。常に世界が新しくなるように、自分自身をも新しくしていかなければならないのが、魅力だと思います。



盆踊り前のハワイ日系仏教寺院

Q. どういった研究をされていますか？

A. ハワイを中心に北米日系社会の音楽や芸能を研究してきました。具体的には、19世紀末に日本人が移民してから現在に至るまでの民謡や盆踊り、楽団、ナイトクラブ、カラオケ、太鼓音楽等を扱ってきました。



ハワイ仏教会の花祭での太鼓演奏

Q. なぜ移民文化に注目したのですか？

A. 人が移動することで、芸能や音楽にどんなことが起こるのかが興味がありまして、多文化社会、多民族

社会についても興味がありました。私は移民社会に注目してきましたが、現在ではSNSや多様なメディアの影響で、より複雑なことがおきていて、研究動向もかわってきています。



パーティでいただいた特大ケーキ

Q. 授業やゼミの様子は？

A. 入門編としては、オーソドックスな人類学の歴史、方法、対象、最近の研究動向が必須ですね。演習等では、最近のテーマを扱い、実習もしています。文化人類学の専攻学生の卒論のテーマは、この十数年の間に随分とかわってきました。例えば研究対象をみると、以前は地域の祭りや民間信仰、食文化、伝説等を扱う学生が大部分でした。その後は、アニメやゲーム実況、ファッション等に興味を持つ学生の割合が増えてきています。基本的には、学生の好きなテーマを選んで研究方法を検討しながらすすめますが、それぞれ新たなことを発見してショックを受けたり感激しているようですよ。

Q. ゼミの思い出は？

A. 合宿や実習は楽しかったですね。学生たちの若い感受性は、私にとっては新鮮で、いつも楽しく学ばせてもらっています。

Q. 卒業生へのメッセージをお願いします。

A. 幸せでいてほしいですね。ずっとずっと応援しています！



2016年度の追い出しコンパ

(インタビュー 小林紀子)



えがお 愛顔つなぐえひめ国体

第72回国民体育大会 平成29年 9月30日(土)～10月10日(火)

えがお 愛顔つなぐえひめ大会

第17回全国障害者スポーツ大会 平成29年10月28日(土)～10月30日(月)



君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え

えがお 愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会とは

いよいよえがお 愛顔つなぐえひめ国体（第72回国民体育大会）、えがお 愛顔つなぐえひめ大会（第17回全国障害者スポーツ大会）が開催されます！

愛媛で国体が開催されるのは、昭和28年四国四県で合同開催されて以来64年ぶり、県単独としては初の開催となります。えひめ大会はオリンピックの後に開催されるパラリンピックのように、毎年国体終了後に開催されており、愛媛では初めての開催となります。

えひめ国体は9月30日(土)から10月10日(火)の11日間、えひめ大会は10月28日(土)から10月30日(月)の3日間、県内各地で様々な競技が開催されます。両大会期間中は、国体は約22,000人、大会は約5,500人の選手・役員が全国から訪れますが、観覧者や運営スタッフ、ボランティアの方等も含めると、県内外から延べ80万人の参加者が見込まれる一大イベントです。そのため、ピーク時には1日あたり約2万人分の宿泊場所や700台以上の貸し切りバスが必要となるなど、これまで経験したことのない状態となります。また、天皇皇后両陛下をはじめ、多くの皇室の方々もご来県される予定です。まさに、愛媛県史上最大のスポーツイベントになります。

県民総参加

県では、「県民総参加の大会」を目指しており、多くの県民の方々に「何らかの形で両大会に参加してほしい、関わってほしい」という思いで、広報活動をしています。「自分の生活には関係ない、興味がない」という方も多いかと思いますが、私も国体の仕事をするまでは、そんな一人でした。しかし、両大会を目標に頑張っている選手や選手を支える指導者を知り、今まで見る機会が少なかった新聞の地元スポーツ欄の記事を読むようになりました。

また、運営面で多方面の方々やボランティアに登録された方々とお話し、改めて、様々な方々に支えられている大会だと感じています。きっと皆さんの周りにも両大会に関わっている方がいらっしゃるかと思います。64年ぶりの開催、せっかくの機会ですから、多くの方々に、いろんな形で両大会に関わっていただき、「えひめ国体・えひめ大会に参加して楽しかった!」と感じてほしいと思っています。

県選手団への応援

今から関わる一番簡単な方法は、競技の観戦・応援です。国体の魅力の一つは、身近な会場で、全国トップアスリートの試合を観戦できることです。学生時代に

汗を流したスポーツやお子さんがしているスポーツだけでなく、少し聞きなれないスポーツもあるかもしれませんが、是非、お近くの会場に足をお運びください。そして、国体は都道府県対抗なので応援も単純明快です。選手にとって、地元の応援は一番の力になります。皆さんの熱い声援が、天皇杯・皇后杯獲得の鍵になります。一緒に1位を目指しましょう！

えひめ大会では、障がいのある選手がライバルや自分の限界に挑戦します。また、普段観戦する機会が少ない障がい者スポーツ特有の競技もありますので、ぜひ、お近くの会場で応援してください。

えひめ国体・えひめ大会応援アプリ※

県では、競技観戦を100倍楽しむため、愛媛新聞社と連携して「えひめ国体・えひめ大会応援アプリ」を制作しています。愛媛県選手の活躍状況が分かる『競技観戦お役立ちアプリ』であるとともに、選手へ応援メッセージを送ったり、試合や競技会場の様子を投稿できたりと、『参加型アプリ』にもなっています。投稿した内容は愛媛新聞ONLINEに掲載されますので、ちょっとした記者気分も楽しめます。アプリは無料でダウンロードできますので、競技観戦のお供に、ぜひご利用ください。

最後に

えひめ国体・えひめ大会は、長年、多くの方が関わり準備を進めてきましたが、始まってしまえば、えひめ国体は11日間、えひめ大会は3日間と、とても短い開催期間です。ただ、これまで積み重ねてきたものは、両大会のレガシー（遺産）として、引き継がれていきます。私が3年前に長崎国体を視察した際に、地元企業の方が「長崎県が少しでも元気になればと思い頑張っている」と話されたことがとても印象に残っています。今回のえひめ国体・えひめ大会の開催により、スポーツ文化が根付くことはもちろん、愛媛県や地域の活性化につながり、愛媛県がもっと元気になればと願っています。

両大会の開催は目前に迫っています。みなさんのご理解とご協力、よろしくお願いします。

えひめ国体推進局国体総務企画課広報グループ
大塚奈美（H14年 総合政策学科卒）



※えひめ国体・えひめ大会応援アプリ



*スマートフォン、タブレットPCでのご利用に限りません。
*ご利用時の通信料はかかります。あらかじめご了承ください。

★ホームページはこちら えひめ国体 検索
URL <http://www.ehimekokutai2017.jp/>

Facebook、twitter、LINEもやってるよ!見てね!

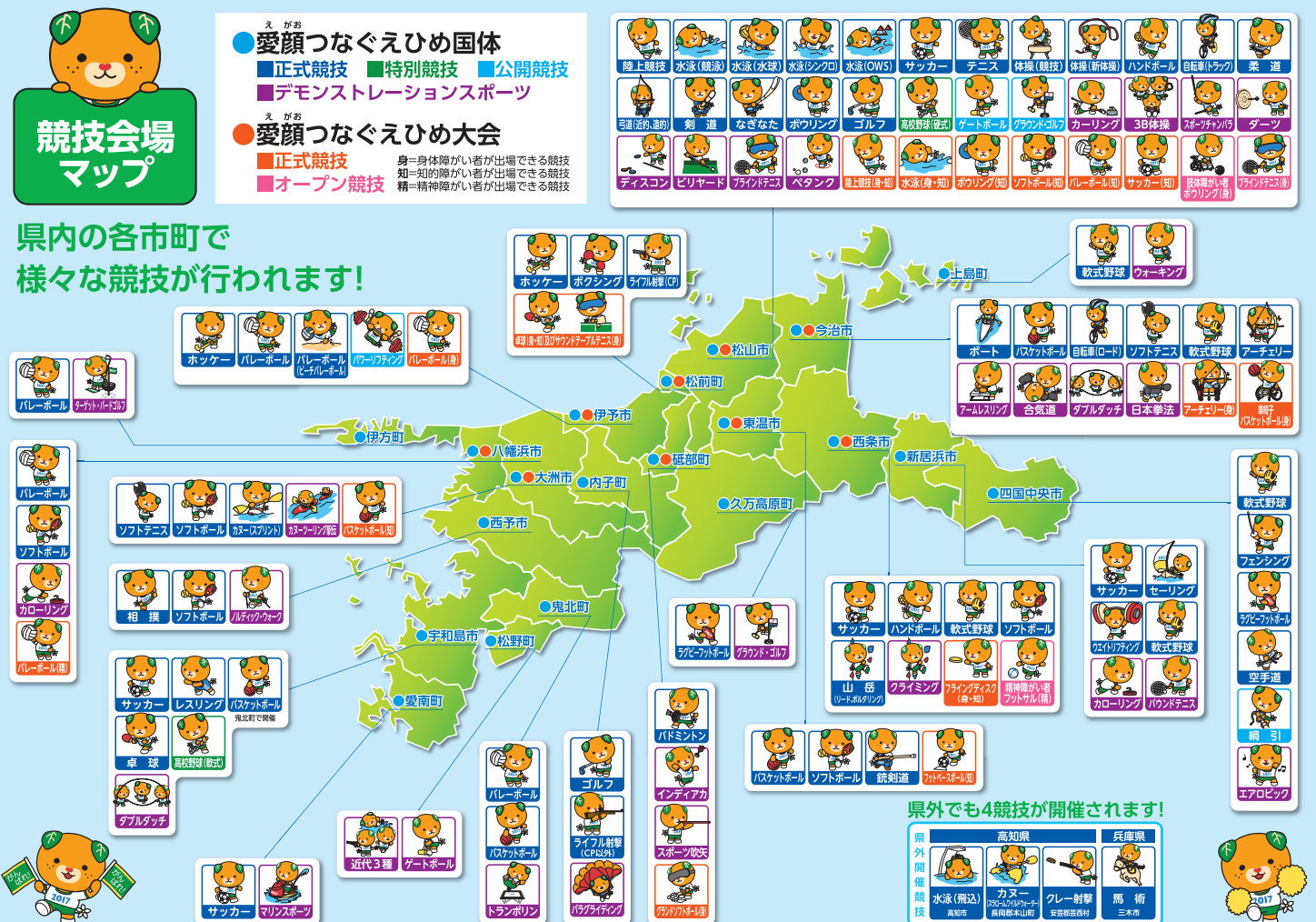


アプリアイコン

アプリトップ画面



県内の各市町で 様々な競技が行われます!

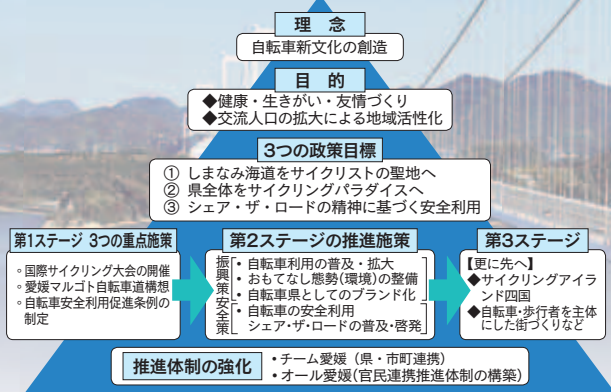


県外でも4競技が開催されます!



瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会 を通じた観光振興

愛媛県が進める自転車新文化の全体像



1 自転車新文化「マルゴト自転車道」

これまでの自転車の役割は、日常生活における移動手段や一部愛好者によるレジャーの手段としての位置付けでしたが、時代の変化に加え、「東日本大震災」も一つのきっかけとして、自転車に求められる期待・役割に変化が生まれました。

趣味・レジャーを重視するライフスタイルの変化、健康志向の高まり、温室効果ガス削減に向けた環境意識の向上などを背景に、自転車への期待や求められる役割は益々高まり、更なる利用の増大が見込まれる中、愛媛県では、自転車が単なる移動手段ではなく、スポーツやレジャーのツールとして、私たちに「健康」、「生きがい」、「友情」をプレゼントしてくれるという「自転車新文化」の理念をいち早く提唱し、

- 1 自転車県としてのブランド化
- 2 おもてなし態勢の整備
- 3 自転車利用の普及・拡大
- 4 自転車の安全利用

の4つの柱を軸とした施策を展開しています。

最初の取り組みの一つとして、平成24年に、愛媛が誇る、自転車で海の上を走る「瀬戸内しまなみ海道」、潮風を感じる海沿いの道、西日本一高い「石鎚山」でのヒルクライム、日本一細長い「佐田岬半島」で左右に海を見下ろすサイクリングなど、世界に通用する高いポテンシャルを持ったロケーションを活かした上・中級者向けの11コース、ファミリー向けの15コース、合計26のサイクリングコースを設定し、県内全域で誰もが自転車を楽しめる「愛媛マルゴト自転車道」を構築しました。



2 大会開催に至る経緯

なかでも、「瀬戸内しまなみ海道」は、東洋のエーゲ海とも言われる多島美を誇る大小の島々を結び、世界でも類を見ない自転車で海の上を走ることができるという素晴らしいロケーションのもと、高いポテンシャルを有しているとの認識はあったもののうまく活用できず、本当の魅力や活用の仕方を模索していました。

そして平成24年5月、台湾からの訪問団を迎えての交流サイクリングで「しまなみ海道」に対する高い評価を得たことをきっかけに、世界に通用するコンテンツであることを確信し、「サイクリストの聖地」として広く発信することにより、しまなみ海道エリアをはじめとする愛媛県への観光誘客と地域活性化を促すであろうと考えました。

世界に通じるインパクトある発信を模索した結果、それまで国内では例がなかった高速道路本線を交通規制しての国内最大級のサイクリング大会開催に向け、準備を進めることとなりました。

3 大会の歴史

(1) プレ大会「サイクリングしまなみ2013」の開催

瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会を開催するにあたり、大会を成功させるには十分な事前検証が必要であることから、まずは愛媛県側の瀬戸内しまなみ海道を舞台に、平成25年10月20日(日)にプレ大会「サイクリングしまなみ2013」を開催しました。



供用中の高速道路を規制して開催するサイクリング大会は国内では前例がなく、道路管理者や交通管理者との協議は想定していた以上に難航し、開催概要の発表まで多くの時間を費やしたため、開催日まであと3か月と迫ったところようやく参加者募集にこぎつけることができました。

準備作業が遅れる中での募集でしたが、受付開始から5日間で3,000名の定員に達するとともに、県外からのエントリーが半数以上を占めるなど、「瀬戸内しまなみ海道」のブランド力や「高速道路を利用したサイクリングイベント」への注目度の高さを感じさせる結果となりました。

開催当日はあいにくの雨天となり、悪条件での大会となったものの、国内外から約2,600名のサイクリストに参加していただき、刻々と変化する瀬戸内しまなみ海道の絶景を楽しむとともに、沿道からの住民の応援やエイドステーション等、お遍路文化に根づく愛媛の「おもてなし」に触れていただき、まずまずの評価をいただきました。一方で、当然のことなが



ら課題も多く見つかり、本大会開催に向けスタッフ一同、身が引き締まった瞬間でもありました。

(2) 瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」の開催

プレ大会で得た反省点・改善点を踏まえ、平成26年10月26日(日)に「サイクリングしまなみ」を盛大に開催しました。大会当日は晴天に恵まれ、国内で唯一、供用中の高速道路を走行できるプレミアム感もあり、国内は46都道府県から、海外はアジアを中心に31の国と地域から、日本最大級となる7,281名の方々に参加いただきました。

同大会は、地元自治体や企業・団体、住民の皆さんをはじめとするボランティアなど、総勢5,600人というスタッフに支えられ官民を挙げての体制で取り組んだ結果、大きなトラブルもなく大会は終了し、参加者から「景観はもとより、沿道からの応援やエイドステーションでのおもてなしが素晴らしかった」と大会運営に関して高い評価をいただき、サイクリストの聖地「しまなみ海道」の魅力を国内外に強力に発信できました。

また、大会開催を通じて約6億円の経済波及効果と8億円を超える広報宣伝効果を得られる結果となり、今後のしまなみ海道の利用促進と沿線地域の交流人口拡大に繋がる大会となりました。

(3) 瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ2016」の開催

「サイクリングしまなみ2016」は、2年前の前回大会で得られた国内外へのPR効果を維持・発展させ、「サイクリストの聖地」としてのしまなみ海道の地位を確立するとともに、愛媛県の自転車新文化を象徴するイベントとして定着させることを目指して、平成28年10月30日(日)に開催しました。

大会当日は天候に恵まれ、国内は47都道府県すべてから、海外は台湾、香港、韓国など、アジアを中心に9の国と地域から、総勢3,539名の方々が参加。しまなみ海道の絶景はもちろん、沿線で地域住民の方々の応援やおもてなしを満喫していただき、「サイクリストの聖地」として広く国内外に発信することができ、しまなみ海道サイクリングのさらなるファン獲得に繋がる素晴らしい大会となりました。

4 瀬戸内しまなみ海道のPR効果

これまでの大会開催により、瀬戸内しまなみ海道の圧倒的な魅力、高速道路本線を走行できるプレミアム感、そして沿線の地元住民による温かいおもてなしが国内外の参加者の心をとらえ、好評を得たおかげで、口コミやSNS等によって拡散し、日常的に国内外から多くの自転車愛好家たちが訪れる「サイクリストの聖地」として認識されました。そして平成26年度のしまなみ海道を走るレンタサイクルの年間利用が前年度比42%の伸びとなり初めて10万台を突破し、11万6,000台を記録。翌年度には13万5,229台とさらに伸び、

同年のしまなみ海道の自転車通行量(しまなみ海道振興協議会調べ、推計値)も3年前と比較すると倍増の32万5,853台となるなど、好調に推移しています。

また、対外的にも次のような評価をいただくようになるなど、大会開催を通じた瀬戸内しまなみ海道のPR効果が表れてきています。

- (1) CNNテレビで世界7大サイクリングルートの一つに選定
アメリカCNNテレビの旅行情報サイトで「世界で最も素晴らしい7つの自転車道」の一つとして紹介(平成26年5月)
- (2) ロンリープラネットのガイドブックで世界50選の一つに選定

世界的に有名なオーストラリアの旅行ガイドブックの会社、ロンリープラネットの「世界の魅力的なサイクリングルート50選」が、ルートとしては日本で唯一瀬戸内しまなみ海道を掲載(平成28年10月)

- (3) トリップアドバイザーでの紹介

旅行者の口コミを基に集計・発表されたトリップアドバイザーの「旅好きが選んだ!日本の展望スポットランキング2017」において、全国の展望名所(東京タワー、東京スカイツリー等)のなかで、瀬戸内しまなみ海道の展望名所「亀老山展望公園」が2位にランクイン(平成29年3月)

- (4) 楽天トラベルランキングで1位

旅行予約サイト「楽天トラベル」が、サイクリストに人気の旅行先ランキングを発表し、「今治・瀬戸内しまなみ海道」が2年連続1位。尾道・福山・しまなみ海道が3位(平成29年4月)



5 今後の取組み

(1) サイクリングしまなみ2018の開催

これまでの大会開催により、しまなみ海道の魅力を世界中に発信してきましたが、更に世界での認知度を高め、国内外からの観光客を誘致するため、平成30年秋に再び大規模大会を開催します。

世界中から注目されるようなイベントに磨き上げ、「サイクリングパラダイス愛媛」を確立し、サイクリングを核とする一層の観光振興と地域経済の活性化に繋がるよう取り組みます。

(2) 自転車新文化の推進

本年5月には「自転車活用推進法」が施行され、今後、全国的に身近な交通手段である自転車の活用による環境への負荷の低減、災害時における交通の機能維持、国民の健康増進等に繋がる施策が展開されます。

愛媛県はそのトップランナーとして、官民一体となって、「自転車新文化」を推進していきます。

しまなみ海道を「サイクリストの聖地」に!

愛媛県を「サイクリングパラダイス」に!

四国を「サイクリングアイランド」に!

愛媛県観光物産課 藤原康芳(H3年 経済学科卒)

退職された教員の方々

- ① 愛媛大学にいられた年
- ② 所属の学部・講座
- ③ 研究・専門について



井藤正信先生

- ① 平成3(1991)年10月
- ② 法文学部社会科学講座
- ③ ドイツおよびヨーロッパの企業管理史

出生地 香川県丸亀市

最終学歴 明治大学大学院経営学研究科経営学専攻
博士後期課程満期退学

学位・称号 博士（経営学）

所属学会 日本経営学会・経営史学会・労務理論学会
など

香川県丸亀市に生まれ、父親の転勤で九州、山口県などの学校を転々とし、はじめて3年間通して通ったのが宇部の宇部高校でした。

その後、明治大学に進学し、就職活動もしないまま、気がいたら大学院に進学していました。大学院では多くの先生方に助けられ、何とか大学に職を得ることができ、平成3年に愛媛大学に赴任してまいりました。愛媛大学では研究面で十分に成果を出すことができませんでしたが、教育では良い学生に恵まれたこともあり、満足のいく大学生活でした。

研究についてはドイツの企業管理、特に科学的管理の発展過程を分析し、ドイツ企業や関係団体へのヒアリングや調査などを通じて一書として纏めることができました。その後は思ったように研究は捗らず、忸怩たる思いがありました。

ただ、思い返しますと、こうして研究者の道を歩むことができましたのも、小学校高学年から大学まで本を読むのが好きで、あらゆるジャンルに渡って読みまくったこと、加えて大学院やその後の教員生活で多くの先生方や先輩方に助けられたためだと思っています。特に先生では明治大学の元教授、高橋敏夫先生、先輩では札幌大学の元教授、故平尾武久先生には公私ともたいへんお世話になりました。

また、教え子については私が愛媛大学を退職するにあたって、約20年前の卒業生が訪れてくれたり、遠くから駆けつけてくれたりするなど涙腺が止まることはありませんでした。卒業生諸君、本当にありがとうございます。現在は生まれ故郷の香川県において大学での職を得て研究・教育生活を継続しております。



長井偉訓先生

- ① 平成4(1992)年
- ② 法文学部社会科学講座
- ③ 企業労務と雇用・労働問題

出生地 熊本県熊本市

最終学歴 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学

学位・称号 経営学修士

所属学会 社会政策学会、労務理論学会、日本労働社会学会、日本経営学会、産業学会、過労死防止学会など

愛媛大学法文学部に赴任して、25年間になります。赴任した当時、法文学部は文学科、法学科、経済学科の3学科からなり、私は経済学科に所属しておりました。その後、1996年に法学科と経済学科が総合政策学科として統合・再編されました。総合政策学科が掲げる教育理念は、現代の複雑な社会問題を複眼的な視角から捉え、問題解決のための処方箋を学問的に探求していくという点にレーゾンデートルがあり、個人的には更なる発展を期待していました。

そのような意味で、皮肉にも私の退職期になされた総合政策学科の解体はととても残念でなりません。

さて、25年の間に、私のゼミナールからも多くの学生達が社会に巣立ってゆきましたが、皆さんお元気でご活躍のことと推測します。

次ページに掲載されているのは、今年の2月11日に私の退職を記念して開催された「退職記念ライブ」（会場はBetty Crocker's）の時の写真です。現役のゼミ生の他、連絡の取れた卒業生がお祝いに来てくれました。ライブ（同僚のピアノ、学生のヴァイオリン、アカペラによるコーラスを交えながら1960年代のアメリカンフォークとビートルズの曲全20曲）は途中食事休憩を入れて、約4時間に及ぶ長丁場でしたが、皆それなりに楽しんでくれたようで本当に嬉しく思いました。ゼミの卒業生が作ってくれた『ミニアルバム』、131枚にもおよぶ『ライブ写真集』は、私にとって最も大切な思い出となりました。心よりお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとう。

またいつか、卒業生の皆さんとゼミ合宿など、愛媛大学時代の思い出を語り合えればと思っている次第です。

最後になりましたが、健康にはくれぐれも気を付けて、仕事だけでなく自分の生活も大事にして、様々な領域でご活躍されることを祈念しています。またお手すきの時にでも近況をお知らせいただければ、嬉しい限りです。



赤間道夫先生

- ① 昭和60(1985)年
- ② 法文学部社会科学講座
- ③ 経済学史

出生地 宮城県

最終学歴 京都大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史学専攻博士課程修了

学位・称号 経済学修士

所属学会 経済学史学会、経済理論学会、社会思想史学会、政治経済学・経済史学会、経済教育学会、マルクス・エンゲルス研究者の会など

愛媛大学法文学部で32年3ヶ月お世話になりました。赴任当時は新学科となったばかりの経済学科でした。新人の小生を入れてようやく20名を超す学科でしたが、公募で採用された第1号という栄誉を得ました。採用は4月からの予定を、教壇に立つには準備が必要であるとの理由をつけて3ヶ月早めて専任講師で採用してもらいました。当時妻子持ちのオーバードクターで少しでも早く定職に就きたかったというのが真相です。厚かましさの片鱗はこの時から発揮されたようです。

2年後にゼミ担当になり、その後の人気ゼミ(?)には遠く及ばず、1期生はたったの2名でした。それから総合政策学科改組を経て、通算29期のゼミ生200名弱、夜間主ゼミを入れれば200名を超す卒業生が小生の一番の宝ものです。一時期韓国や中国、ドイツからの留学生がいて、期せずしてゼミを通じて国際交流できたのも思い出になりました。

講義は専門の経済学史にくわえて総合政策学科になってからは文化経済学を担当しました。出席してよかったと思ってもらえる講義（＝遊び心もちながらも内容ある講義）を心掛けました。ゼミはその時々为社会問題に関わる文献を輪読してきました。経済学科時代にはドイツ語と社会科学古典の自主ゼミを開き10年ほど続いたこともありましたが。

20年ほど前からのキャンパス生活はあの「はなちゃん」とともにありました。ときには「学長」と呼ばれることもあった「はなちゃん」は人間を怖がる犬でした。それが徐々に打ち解けコミュニケーションできるまでになりました。口笛を吹いたらあのもっこりした姿で走ってくる「はなちゃん」を思いだしています。小生よりも「はなちゃん」を愛し、病気になってからは自宅に引き取ったTさん夫妻のおかげもあって、2015年1月天寿を全うしました。小生の一番のお気に入り「はなちゃん」の写真を掲げておきます（2007年12月撮影）。

4月からは文科省の事業に採択された「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に関わり、あと3年愛媛大学に在職します。キャンパスで口笛を吹いてもらったら飛んでいきます。みなさんも元気で活躍ください。



ICE（ドイツ版新幹線）の前で息子の悠太君と記念撮影する井藤先生（2011年）



長井先生の退職記念ライブにて（2017年2月11日）



はなちゃん



赤間先生に撫でてもらうはなちゃん（2012年5月30日）



大野一之先生

- ① 昭和53(1978)年
- ② 法文学部人文学講座
- ③ 英米文学

出生地 京都市

最終学歴 京都大学大学院文学研究科修士課程英語英米文学専攻修了

学位・称号 文学修士(京都大学)

所属学会 日本アメリカ文学会、アメリカ学会、日本英文学会



樋口康一先生

- ① 昭和61(1986)年4月
- ② 法文学部人文学講座
- ③ 言語学、アルタイ語歴史比較言語学、モンゴル語学・文献学

出生地 大阪市

最終学歴 京都大学大学院文学研究科博士後期課程言語学専攻 指導認定退学

学位・称号 文学修士

所属学会 日本言語学会、東方学会、日本モンゴル学会、韓国日本語文学会等

法文学部 人事異動 (2017年4月1日付)

社会科学講座

福井 秀樹
梅田 道生
岡田 陽介
不破 茂
近廣 昌志
小佐井 良太
鈴木 静

教授
准教授
准教授
准教授
准教授
教授(特任教授)
教授(特任教授)

採用(国土交通省出向より復帰)
昇任(講師より)
昇任(講師より)
昇任(講師より)
昇任(講師より)
称号付与
称号付与

人文学講座

石黒 聡士
野村 優子
太田 裕信
ピオトル ロズネ
早田 美保

講師
講師
講師
助教
助教

採用
採用
採用
採用
採用

(敬称略)

出願期間(予定)

- 教養学部・大学院(修士選科生・修士科目生)
4月入学:第1回募集 12月1日～2月28日
第2回募集 3月1日～3月20日
10月入学:第1回募集 6月15日～8月31日
第2回募集 9月1日～9月中旬

- 大学院:修士全科生(年1回募集・選考試験あり)
8月中旬～8月下旬

多彩な放送授業約300科目。1科目からでも学べます。

資料を無料でさし上げております。お気軽に、愛媛学習センターにご請求ください。



放送大学

放送大学

検索

〒790-0826 松山市文京町3番
放送大学愛媛学習センター
TEL 089-923-8544

理事会報告

2016年度 第2回(通算第69回)理事会

日時:2016年10月14日(金)18:00～21:00

場所:愛媛大学職員会館2階大会議室

出席者:29名

【報告事項】

- 第7回ホームカミングデイについて
- 第20号同窓会報発行
- 2016年度法文学部同窓会提供講座「社会と人間」
- 支部活動・支部長会など報告と予定
- 大学関係行事、会長会・校友会理事会の報告と予定
- その他 塔時計について

【審議事項】 なし

2016年度 第3回(通算第70回)理事会

日時:2017年2月10日(金)18:00～21:00

場所:愛媛大学校友会館2Fサロン

出席者:21名

【要請事項】

- 愛媛大学基金への協力について
- 法文学部50周年記念行事等への協力について

【報告事項】

- 2016年度同窓会提供講座「社会と人間」
- 支部活動・支部長会など報告と予定
- 大学関係行事、会長会・校友会理事会の報告と予定
- 2017年度会報編集委員会スタート
- 2016年度決算(暫定)について

【審議事項】

- 2017年度予算案について → 承認されました。
- その他
2002年以降発行されていない名簿について、発行に向けての検討を開始したい。 → 承認されました。

2017年度 第1回(通算第71回)理事会

日時:2017年6月2日(金)18:00～21:00

場所:すし丸 本店

出席者:29名

【報告事項】

- 2017年度同窓会提供講座「社会と人間」
- 2017年度(第21号)会報発行準備状況
- 同窓会員 会員数報告

2016年9月卒業生	学部生15		
2017年3月末卒業生	学部生545		
【内訳】	(男)	(女)	(計)
総合政策学科	166	191	357
人文学科	44	144	188
総計	210	335	545
【総計】			
文理学部19年(1953～1971年)	2,222		
法文学部46年(1972～2017年)	18,937	計21,159	
2017年4月 法文学部入学者数	学部計	392	
【内訳】	(男)	(女)	(計)
人文社会学科(昼)	125	168	293
人文社会学科(夜)	41	58	99

総計	166	226	392
3年次編入	18	16	34
法文学研究科	4	8	12

- 支部活動・支部長会など報告と予定
4/8(土) 四国支部お花見会(すし丸本店)
5/24(水) 監査(2016年度)
- 大学関係行事、会長会・校友会理事会の報告と予定
3/24(金) 愛媛大学卒業式(ひめぎんホール)
4/6(木) 愛媛大学入学式(ひめぎんホール)
6/23(金) 校友会理事会(15:00～ 全日空ホテル)
6/28(水) 会長会(18:00～ haco 愛大城北店)
- その他

【審議事項】

- 2016年度決算・監査報告および承認
1)収入792万3,840円(予算777万9,000円、昨年度566万1,964円)に対し、支出756万5,720円(予算789万800円、昨年度780万7,913円)となり、35万8,120円の黒字となっています(昨年度214万5,949円の赤字)。同窓会費の値上げ(1万→2万)によって単年度黒字の目途がたちました。
2)支出の内訳では、事務局手当96万円、法文学部事務謝金5万円、交通費28万1,070円、三役会議・理事会・監査経費38万4,866円、新卒業生33万7,800円、支部活動費166万3,482円、会報発行経費311万516円、事務経費25万4,624円、学部学生就職支援41万7,770円、渉外活動費2万円、雑費8万5,592円の計756万5,720円で、予算に対して32万5,080円少なくなっています。
3)5月24日(水)に、畠中監事・吉岡監事により監査を行いました。 → 承認されました。
- 2017年度予算案(再提案)
収入は、803万円程度が見込まれます。支出については、ほぼ昨年度の額を踏襲しています。会報発行経費は、印刷費と宅配送料で300万円を切り、合計で311万円台の予算にしています。全体としては目標の800万円以内である771万2800円に抑えた予算としています。 → 承認されました。
- 2017年度の事業計画
1)同窓会報は、同窓会員への大学・学部・同窓会活動の紹介や会員相互の情報交換の場として、毎年1回発行します。同時にホームページの充実を図ります。
2)支部活動の活性化を重視し、本部・支部間の交流および支部総会への出席者を増やすための対策を検討します。
3)11年目を迎える「提供講座」を充実させるとともに、学生の就職活動に対応したサポートができるよう、現役学生との繋がりを広げます。
4)同窓会名簿の精度を高めます。
5)日常の活動強化の基本となる、明るく活発で民主的な理事会運営に努めます。 → 承認されました。
- 2018年度法文学部同窓会寄付科目・提供講座の開講について → 承認されました。
- 寄付について
→ 加藤学部長から法文学部への寄付の要請があり、種々審議した結果、来年度以降は再検討することとし、今年度に限って法文学部学生の留学支援に限定するという条件付きで、同窓会から100万円を寄付することが承認されました。また今後、愛大基金への恒久的な寄付および同窓会の運営資金を確保するために、同窓会員への寄付を募ることも承認されました。
- 同窓会名簿について
2002年12月以来、約15年間発行されていない同窓会会員名簿(冊子)について討議したい。
→ 2017年の会報発行時に名簿冊子作成の調査票を同封し、その結果を踏まえて検討することになりました。

同窓会 提供講座『社会と人間』

講師・お手伝いの方に感想をお聞きしました！

10年目となる2016（平成28）年度提供講座は、法文学部同窓会の全面的支援の下、法文学部の卒業生を講師として下記の日程で開催されました。

後期の毎週水曜日・第5限目に開催し、全15回、22名の講師にご協力いただきました。今年度は200人以上の学生が受講し、会場を大講義室に替えて講義を行うほどの盛況ぶりでした。2017年2月1日（水）には、お手伝いをしていただいた現役学生に感謝状を贈呈し、講師陣も交えて反省会と懇親会を行いました。

回	テーマ	担当	担当講師名	卒業年・学科
1	ガイダンス	10/5	小池 昭彦	1970・文経
2	サービス業という仕事	10/12	久保 泰敏	1974・法
3	県職員として働く	10/19	野村 靖記	1976・法
4	警察・消防で働く	10/26	鶴本 創	1997・法
5	経営者として挑戦	11/2	竹村 亜子	2011・総政
6	働く女性の現在	11/9	近藤 梨嘉	1983・法
7	金融業界で働く	11/16	大塚 英俊	2003・総政
8	教育の現場で働く	11/30	大藪 崇	2002・総政
9	起業家として挑戦	12/7	重松 直江	1994・経済
10	卸売業という仕事	12/14	矢野 一彦	1985・法
11	農業振興への挑戦	12/21	森藤加奈子	2008・総政
12	刀匠という仕事	1/11	加藤 美樹	1982・文国
13	報道業界で働く	1/18	芳野 裕士	2000・総政
14	僧侶として働く	1/25	中井 雅史	2002・院総政
15	まとめ	2/1	三木健太郎	2013・総政

2016年度提供講座の学生に対するアンケート結果

興味深かった講義

- 1位 報道業界で働く
- 2位 起業家として挑戦
- 3位 警察・消防で働く
- 4位 経営者として働く
- 5位 働く女性の現在

満足度

大変満足している	28.0%
やや満足している	63.2%
若干不満足である	5.5%
不満足である	3.3%

印象に残っている言葉・影響されたこと

大学のうちにできることをたくさんやる／本気がかかれ／自分の好きなことを極めることが大事／ポジティブに生きるといこと／学生の時、たくさん勉強すべきだ／人の縁／やってみないと分からない など

2017年度 提供講座・寄付科目開講のお知らせ

▶2017年度 法文学部提供講座 開講計画

回	テーマ	担当	担当講師名	現 職
1	ガイダンス	10/4	小池 昭彦 久保 泰敏	法文学部同窓会会長 元㈱フジ取締役・㈱レディ薬局監査役 法文学部同窓会 事務局長 法文学部就職相談員
2	経営者として挑戦	10/11	大藪 崇	㈱エイトワン 代表取締役社長
3	出版業界で働く	10/18	竹内健太郎	㈱KG情報 流通プロモーション本部 流通部 愛媛流通課
4	小売業界で働く	10/25	本川 尚美 中村 麻衣	㈱フジ 総合企画部 広報秘書課 広報係長 ㈱フジファミリーフーズ
5	起業家として挑戦	11/1	芳野 裕士	㈱ GOOD FIELD 社長
6	県職員として働く	11/8	和氣 吉宏 中原 載子	愛媛県 えひめ国体推進局 国体運営・施設課 施設グループ 担当係長 愛媛県 県民環境部 防災局 防災危機管理課 防災企画グループ 主事
7	金融業界で働く	11/15	日野 和行 児玉 菜月	㈱伊予銀行 地域創生部 課長代理 ㈱伊予銀行 松山駅前支店
8	刀匠という仕事	11/22	小島潤一郎	桜三里工房 刀匠
9	連続履修への案内	12/6	西 耕生	法文学部担当教授
10	教育の現場で働く	12/13	熊谷 広行	済美平成中等教育学校 教諭

回	テーマ	担当	担当講師名	現 職
11	警察・消防で働く	12/20	近藤 梨嘉 大塚 英俊	愛媛県警察本部 厚生課 健康管理対策課長補佐 松山市消防局 東消防署 消火業務担当
12	農業振興への挑戦	1/10	坂本 憲俊	穂田琉ファームオーナー
13	働く女性の現在	1/17	小林 美菜	㈱CO-BA（コバ） イベントディレクター フリーバーソナリティ
14	報道業界で働く	1/24	松居 大輔 山本 茜	㈱愛媛新聞社 地域読者局 販売部 ㈱愛媛新聞社 編集局 報道部
15	海外で地図と羅針盤を探そう	1/31	渡部 雅泰	クレストデジタルス㈱ 代表取締役
16	まとめ	2/7	松本 長彦	法文学部同窓会副会長 法文学部教授

▶2017年度 法文学部寄付科目 実施状況

学期	学 科	科目名	時間割	担 当 教 員
前期集中	総合政策学科	経営学総論	前期集中	本田 毅（非常勤講師）
後学期	人文学科	伝統文化論	水曜3限	畑守 泰子（非常勤講師） 張 栄順（非常勤講師）
3Q	人文社会学科	伝統文化論	水曜3限	畑守 泰子（非常勤講師） 張 栄順（非常勤講師）
4Q				

* 同窓会員の方は聴講無料です。詳細は教育支援課法文学部チーム（TEL. 089-927-9220）までお問い合わせください。また同窓会ホームページ（<http://koyu.ehime-u.jp/houbun/blog/>）でもご覧いただけます。

第2回「サービス業という仕事」

松山総合開発㈱（松山全日空ホテル）代表取締役社長
愛媛大学校友会 副会長／前 伊予銀行常務取締役
野村 靖記



この度は、同窓会提供講座の講師という立場で後輩の方々に話をする機会を頂き、大変ありがとうございました。私自身が卒業後40年の節目の年でもありましたので、非常に思い出深いものとなりました。本講座のお世話をして頂きました赤間先生・西先生を始めとする学部の方やキャリア・サポーターとして運営をお手伝いして頂いた学生の皆さんに、改めてお礼を申し上げます。

さて、本講座の目的として「各講師が所属する組織を含めた社会全般に対する考え方、仕事の内容や仕事への取組姿勢、昔の学生生活の実態と今の学生への提案、自分自身の失敗例も含めて伝えたいこと等々」を素直にお話して、少しでも後輩の方々の役に立てれば良いというものがあると思います。私も可能な限り具体的に、40年間の仕事内容と10年刻みで考えたことの話をさせて頂きましたが、卒業後10年間くらいに絞って学生の皆さんが実感を持って考えられる期間の話にした方が良かったかなという反省もありますし、一方で20年後・30年後・40年後の何かの機会の一つでも思い出して頂けることがあればうれしいなという勝手なことも考えております。

ところで、4月上旬に「受講者コメントカード（抜粋）・授業改善アンケート集計結果」を送って頂き、ありがとうございました。学生の皆さんが、現在と将来を考えるためのキッカケになったり、社会に出て大きく飛躍するための一助になったり等々、少しでもお役に立てたのなら良かったと思っています。また、授業全般を通して9割以上の人が満足しているという結果については、聞く側の学生の皆さんの真摯な態度と話す側の卒業生の皆さんの熱意があったからこそ喜んでおります。

最後になりますが、法文学部学生の皆さんと卒業生が、今後とも交流を深めるために本講座が続けられることを期待しますとともに、同窓生の皆さんがそれぞれご健勝で活躍されますことを心より祈念申し上げます。

ティーチング・アシスタントとして運営をお手伝い

大学院 法文学研究科
武田 文乃



私はT A（ティーチング・アシスタント）として、授業運営のお手伝いをさせていただきました。講師の先生方のご職業は様々で、主に日頃のお仕事の話をされますが、ご自身の学生時代について語ってくださることもあります。現在とは全く異なる学生生活を聞いて驚くこともあります。私たちと同じだったんだと共感する場面もありました。授業の運営補助はS C V（スチューデント・キャンパス・ボランティア）とS A（スチューデント・アシスタント）の方たちと協力して行いました。そして、講師の先生が講義をしてくださる間は、私も受講生と一緒に、お話を聞かせていただきました。

この授業は、「自分の人生」や「仕事」についてじっくりと考えることができる授業です。今日の社会は、少子高齢化によりどの仕事も人材不足と言われており、会社側は「即戦力」になる人材を求めています。また、経済や技術の進化により増える職業がある一方で、消えていく職業もあると言われています。このような社会の状況にも関わらず、私たちは自分たちの仕事や生き方についてじっくりと考える機会が少ないです。90分の講義は、先輩方の人生・仕事について聞くだけでなく、自分自身と向き合い、じっくりと考えることができる「貴重な財産」です。まだ難しいと感じることや、自分の考えが足りないと感じるものも多くあると思います。しかし、講師の方も私たちと同じように20代を経験した人間です。私たちが思いつかない多くの経験を通して、たどり着いた考えです。今はわからないことでも、講師の方と同じ年代になる頃にわかるものがあると思います。何か1つでも学び、これからの生き方のヒントにしてほしいです。

受講生の多くは、就職活動をまだ経験していない2・3年生です。しかしこの授業は、就活後・就活中の4年生にもためになる話です。私も就活を終えていましたが、4月からの仕事の際に参考にしようと感じるものばかりでした。4年生も、ぜひ履修してほしい講座です。

今年で、この講座は11周年になります。学生や職員の皆様から支持され、長く続く講座になってほしいと願っています。

一遍上人の生誕地とされる道後の宝厳寺。残念な事に2013年8月、本堂と共に『一遍上人立像』（国の重要文化財）も焼失してしまいました。『一遍聖絵』（国宝）が鎌倉時代の経済活動の様子を描いた場面としてよく知られているのは、一遍の立ち寄った市の風景にあるといえます。遍歴を重ね、各地の様子を見つめた一遍の目を通じて、我々もまた、一遍の生きた時代を、日常を垣間見る事ができます。今回、文学科日本史卒業の川戸貴史先生に書き下ろしで寄稿していただきました。

一遍上人がみた鎌倉時代の経済

千葉経済大学 経済学部 准教授 川戸 貴史
(1998年 文学科卒)



中世伊予最大の有名人・一遍

愛媛県ゆかりの歴史上の人物は、数え切れないほど挙げられるかもしれない。中でも中世の伊予国における有名人を問われて、真っ先に一遍の名が浮かぶ人は少なくないであろう。

一遍（本来の法名は、始めは随縁、後に智真）は延応元年（1239）に、河野通広の子として伊予で誕生した（誕生地は道後の宝厳寺の地であるともされるが、確証はない）。河野氏は、中世を通じて伊予国において活躍した有力領主としてあまりに著名であろう。しかし一遍は武家としての道を歩むことはなく、建長3年（1251）頃に仏門を志して九州の大宰府へ赴いた。後に伊予へ戻って河野氏一門に連なるべく一度還俗したものの、再び仏門を志すこととなり、聖として各地を遍歴す



焼失後、平成28年に再建された宝厳寺本堂（松山市）

るようになった。最期は兵庫津（現在の神戸市）の観音堂において、正応2年（1289）示寂。51歳だった。

北は現在の岩手県、南は現在の鹿児島県まで列島各地を遍歴した一遍の様子は、後に『一遍聖絵』に生き生きと描かれ、現在に伝わっている。「遊行上人」とも称えられる彼の事績はあまりにも著名であり、日本の仏教史においても重要な足跡を残したものとして評価されている。

彼は領主の家の子に生まれながら、権力や奢侈とは無縁な一生を送ったのであり、いかにも俗世界とは隔絶していたような印象を受ける。確かに彼自身はそうであっただろう。一方、『一遍聖絵』には、彼が訪れた各地において起こる当時の日常・非日常的な出来事や当時の景観などが生き生きと描かれており、それを見れば、一遍が生きた13世紀日本の風景をヴィジュアルに感じ取ることができるのである。

そこでこの小稿では、『一遍聖絵』に描かれた場面のいくつかを読み解きながら、当時の生活の実情について紹介してみたい。

『一遍聖絵』にみる鎌倉時代の市

『一遍聖絵』には、まさに様々な事柄が描かれている。それをすべて取り上げることはできないので、小稿では経済活動がわかる事例に絞って取り上げたい。というのも、筆者自身が中世日本の

経済活動、特に貨幣流通についてこれまで主に研究してきたためである。いわば筆者の個人的な関心に基づいて事例を選択することとなるが、諒とされたい。

『一遍聖絵』が鎌倉時代の経済活動の様子を描いた場面としてよく知られているのは、一遍が立ち寄った市の風景である。その市とは、備前国福岡市（現在の岡山県瀬戸内市）と、信濃国伴野市（現在の長野県佐久市）である。よく知られているものではあるが、それぞれについて改めて見てみよう。

弘安元年（1278）、九州の豊後で友頼泰の帰依を受けた一遍は、伊予を経て厳島神社を参詣した後、東へ向かって備前国藤井（現在の岡山市か）へ来着した。そしてその地の「政所」で、主という吉備津宮神主の子息の妻に念仏を勧め、彼女は出家した。それを聞きつけた夫が怒って同国福岡市に居た一遍を殺害しようとしたものの、一遍に出会ったちまち怒りが失せて自らも出家を遂げたという（『一遍聖絵』第四卷第三段）。

このシーンでは、鬼気迫るその男が一遍を斬ろうと刀に手を掛ける姿を中心に据えて場面を際立たせているが、周囲には市で様々な物資が取引される様子が描かれており、その様子が注目されてきた。道路を挟んで粗末な小屋が建てられ、米などの食料品のほか、履物や布が取引される様子が描かれている。老若男女が入り乱れており、様々な階層の人々が商取引を行っている。

そこで支払に充てられていたのは、銭である。市の道路では、立ちながら布を売る女とそれを購入しようとする男が描かれており、男は束ねられ



福岡の市跡（岡山県瀬戸内市）

た銭を女に差し出そうとしている。この銭は一般に渡来銭と呼ばれる、中国から日本へ渡来したものである（主に北宋が発行した銭であったことから、北宋銭あるいは宋銭と呼ばれる）。詳細は後に触れるが、この時期に銭が貨幣として定着していたことを窺わせるものである。

その後京都を経て東へ向かった一遍は、弘安2年（1279）に伴野を訪れた。伴野市の「在家」において、空也が始めたという踊り念仏を行った（『同』第四卷第五段）。ここでは市の小屋は閑散としており、そこで鳥獣が戯れる様子が描かれている。

これは明らかに福岡市と対比的に描かれたものであることがわかる。すなわち、鎌倉時代の地方の市は店舗が常設されたものではないこと、そして市は毎日開かれるものではなかったことがわかる（鎌倉時代では、およそ10日に一度開設する三斎市が一般的であった）。当時の商人は各地を遍歴する者で占められており、それ以外の多くは、地域の百姓が商人を兼業とする者（在郷商人という）だったようである。そのような事情などから、地方において常設店舗を構えるような社会状況には未だなかったといえるだろう。

いずれにせよ、このような鎌倉時代の経済事情は、実は『一遍聖絵』に描かれたこれらの市の様子によって明らかにされたものが多いのである。まさに遍歴によって各地の様子を見つめた一遍の目を通じて、いま我々もまた、鎌倉時代の日常の様子を垣間見ているのである。

掘り出された多量の銭

経済活動にはお金が欠かせない、といっても許されるだろうか。それは現代人たる我々のみではない。鎌倉時代の人々にとっても同様であった。貨幣たる銭を用いる様子は備前国福岡市の描写でみたが、ほかにも『一遍聖絵』には銭にまつわる珍しいシーンが描かれている。

弘安3年（1280）、陸奥国江刺郡にある祖父河野通信の墓（現在の岩手県北上市）への参拝を終えた一遍は、南下して平泉や松島を経て常陸国を通りかかる。そこへ現地の人々に一遍が招かれて37日供養を行った。そしてその人々が庭を掃除したところ、溝の中から銭50貫文（約5万枚の銭）

が出てきたというのである。これについて、供養を行ったという実際の行動が良い報いとなって現れたのだろうと、『一遍聖絵』は述べている。現世における功德が報いとなって現れることを説いているシーンであろう（『同』第五巻第四段）。

ただしここでは、溝の中から銭が掘り出されたという点に注目したい。このシーンを描いた箇所では、やはり銭が紐で繋がれて束になった状態で掘り出されている様子が描かれている。しかも、その数たるや5万枚というのは驚かされる。50貫文は現在の価値にしておよそ500万円前後にも当たるもので、知らずの内に土中に紛れたというようなレベルではない。誰かが意図的に埋めたものが、たまたま掘り出されたものだったと考えられる。しかもその銭は、誰のものであったかは関係なく、掘り出した者の所有物となったようだ。中世史家の網野善彦は、土中の物は誰の所有物でもないという社会通念が当時であったと述べている。

それはさておき、なぜ多量の銭が埋められていたのか。その理由は主に二つある。一つは貯蓄あるいは財産保全の手段としたもの、もう一つは地鎮などの習俗に使用されたためとするものである。

堅牢な蔵などの建築物が未だ一般的ではなかった鎌倉時代においては、多量の銭を安全に保存する手段がほとんどなかった。そこで最も安全な手段となったのが、土中に埋めることである、というのが前者の見解である。全国各地で中世に一括して埋められた多量の銭（「一括埋蔵銭」と呼ぶ）が発掘されており、地域に偏らず一般的に見られる動向であったことが指摘されている。

一方、現在においても地鎮や葬送などの習俗で貨幣を使用する場面があることや、人里を離れた山の峠近くや村々の境界領域などで一括埋蔵銭が発掘されるケースもあることから、単なる貯蓄手段ではなく、中世においても地鎮などの呪術的な手段として銭を使用することがあり、それが時には多量の銭を伴う場合もあったとの指摘もある。

むしろこれらは二者択一で判断するようなものではなく、発掘状況に応じて両者がよりふさわしい事例かを判断することがふさわしいであろう。ただ、筆者はどちらかといえば前者の貯蓄手段とする事例の方が多いだろうとみており、『一遍聖

絵』で掘り出された銭もまた、そうであったのではないかと推測している。

鎌倉時代の貨幣流通

そもそも、鎌倉時代の貨幣流通とはどんな実態であったのか。なぜ都から遠く離れた関東で多量の銭が土中から掘り出されるようなことがあったのか。最後にこの点について触れたい。

日本の金属貨幣は、富本銭や和同開珎などのように、7世紀後半から朝廷が鑄造し発行していたが、10世紀半ばに鑄造を停止し、市場では貢納品目だった米や絹布が貨幣として使用された。しかし12世紀後半になって、中国から日本へ持ち込まれた銭が徐々に貨幣として使用されるようになった。その背景については諸説あり未だ定説をみていないものの、少なくとも朝廷は貨幣としての使用には消極的であったことから、市場の側で自律的に銭を貨幣とする秩序が形成されていったと考えられる。もっとも、すぐさま日本列島の隅々にまで偏りなく銭が浸透していったわけではない。絹布の使用は徐々に廃れるものの、鎌倉時代の段階では依然として米も貨幣として取引に使用されることが多かった。いずれにせよ、銭は、国家権力の関与とは無関係に中世日本の貨幣として普及し定着したのであった。

銭の供給元は中国であるため、その流通量を日本の権力はコントロールすることができず、基本的に供給側の事情によって流通量が制約を受けることになった。逆に言えば、中国の事情によって大量に銭が流出した場合には、需要がある限りにおいて、日本において銭の普及がさらに進む可能性が高まるということになる。実際に、1210～20年代の中国では中国の北部を支配する金とモンゴルとの間で紛争が激化し（金は1234年に滅亡）、その影響で銭が大量に流出したと考えられている。実際に日本では1210年代後半から畿内周辺で土地売買に銭を使用するケースが増加しており、中心市場において銭の普及が進んだようである。

そして日本への銭の流入のピークは、13世紀にもう一度訪れた。それは、1260～70年代にモンゴル（元）が中国へ侵攻し、南宋を滅ぼして統一したことである。モンゴルは紙幣を主要な貨幣と

したため、価値を失った銭が大量に流出した。その主な到達点が日本だというのである。日本では1270年代以降に地方からの年貢を銭で納める荘園が目立つようになったとされており、それは以上のような背景で日本列島の隅々にまで銭が浸透したためとされる。ただしこのモデルには異論があることも付け加えておきたい（詳細は参考文献にある拙著を参照されたい）。伊予の事例を一つ挙げると、東寺領弓削島荘（現在の愛媛県上島町）では、文永4年（1267）に初めて塩の代わりに銭を納めた記録が残っている。

一遍が旅したのは、まさにモンゴルが中国を制圧する時期であり、また、日本を二度襲撃した頃であった。その頃になると、都から離れた関東で多量の銭を所有する者も登場し、隠しておいた銭が掘り起こされることもしばしばみられたのであった。

『一遍聖絵』に描かれた場面をいくつか取り上げながら、鎌倉時代における経済事情について事例を紹介してきた。当該期の経済活動を示した史料は多く存在する一方、絵画資料は非常に少ない。『一遍聖絵』のように、具体的な経済活動をヴィジュアルに描いた資料は、極めて貴重なものである。彼がそれを望んでいたかはわからないが、伊予にゆかりを持つ彼の活動が、結果としてこのような貴重な資料を後世に伝えることになり、また彼の生きた時代を伝えてくれていることに謝意を表したい。



（主要参考文献）
網野善彦「貨幣と資本」（『岩波講座日本通史』9、岩波書店、1994年）
大田由紀夫「渡来銭と中世の経済」（『荒野泰典ほか編『日本の対外関係』4、吉川弘文館、2010年）
小野正敏ほか編『一遍聖絵を歩く』（高志書院、2012年）
川戸貴史『中近世日本の貨幣流通秩序』（勉誠出版、2017年）
佐々木銀弥『中世商品流通史の研究』（法政大学出版局、1972年）
鈴木公雄『出土銭貨の研究』（東京大学出版会、1999年）
『愛媛県史 古代Ⅱ・中世』（1984年）
『一遍聖絵』（大橋俊雄校注、岩波文庫、2000年）
『国宝一遍聖絵』（神奈川県立歴史博物館編集、遊行寺宝物館発行、2015年）

2000年卒業 芳野 裕士

〔総合政策学科〕

私の大学時代。

大学生時代として、大学での思い出と言われると、私は、サークルに入ることもなく、部活をすることもなく、働きながらの学生生活を過ごしました。毎日、18:00～21:00まで講義を受けて、帰宅して、復習しての日々でした。

私の大学生時代は、仕事をしながらの4年間でした。松山市役所に勤めながら、22～26歳までの大学時代を過ごしました。また、22～24歳は松山短期大学で学び、編入学で愛媛大学法文学部総合政策学科（夜間主）に入学できたことを喜ぶとともに、誇りに感じたことを思い出します。

また、高校からラグビーをやっていて、高校卒業後、大手自動車会社での社会人ラグビーを2年経過後に松山に帰ってきて、市役所に入所し、2年間仕事を覚えてからの大学受験でした。また愛媛選抜に入り、国体出場をし、23歳の時に全国大会で総合優勝を体験し、キャプテンを2年間努めながらの大学生活でした。

高校卒業後、すぐ社会に出て働きました。私が選んだのは、大手の自動車会社でした。ラグビーが出来ることを優先し、表面的なところだけで選択しました。実際、機械を相手に無人化ラインのオペレーターの仕事でした。製造業です。2交代制で働きながら、自分でなければならない仕事ではない、一生一度の人生と考えたらと、悩み考えて退職を選択しました。

退職することを決めて、松山市役所を受験し、見事合格し入所しました。20歳の時です。私は大手企業、公務員として働く中で、大学を卒業している人との触れ合い、共に仕事していく中で、大学ではどんなことを学ぶのだろうか？という興味を強く持ちました。

私自身、学歴社会の中で高卒というコンプレックスもあり、初めて自ら稼いだお金で勉強がしたいという気持ちが湧いてきたことを思い出します。と同時に、大学卒の先輩を見返したいという発奮のエネルギーであったと解釈しています。仕事を必ず定時で上がり、時間を創り、学ぶことを選択しました。昼休みも、出来る限り仕事をしていました。

です。学生時代の思い出は、タイムスケジュールの連続でした。自分の役割とやるべきことを明確にして、トータルパーソンとしてのバランスを意識して、プラン通りに実践することを地道にやっていました。

学ぶ姿勢も異常なほど飢えていたかもしれません。友達も出来ないというか親密性も欠如していた状態だったんだと思います。

孤独を創り、その孤独を楽しむような時間だったと思います。

大学入学当時から始めた10年間にわたる日記。そこに記されていることは、ただただ、現状よりより良く

なりたいたい……。こうあるべきだ。という理想を追い求めたエネルギー。大学で学ぶことが自分の人生において、より良くなるヒントや知識を得られると信じて学んでいました。また、大学卒という最終学歴と称号を勝ち取ることが、そこにつながると信じて安直に考えていた頃でした。



学生時代の日記とスケジュール表

今、改めて振り返ると……。ハードワークな4年間で過ごせたことで、自己信頼ができるようになりました。自信を持てることで、困難なことが目の前に現れてきた時も、逃避することなく立ち向かい解決していくことで、今があると思っています。

頭で考えること、イメージすることではなく、実際に実践することでしか得られないと思います。そして、実践し続けることが、より良い人生を歩んでいくには重要なことだと、改めて実感しています。

ものの見方、考え方を大学で学ぶこと。そして実社会で働きながら、意識することが、知識から知恵に少しですが、前進していると思います。

まだまだ足らずなところばかりですが、経営者として、より良い会社にしていくことが、大好きな愛媛、松山、地域社会に貢献できると信じていますし、地域社会の貢献のために、お好み焼きを通して、どうしていくかと考えています。

30歳からの起業。

「お好み鉄板 すみれ」を清水町に開業します。12坪の小さなお店で路地裏の一方通行の立地からのスタートでした。「すみれ」の名前の由来は、「smile」を強引にローマ字読みしています。すみれに関わる方に、「笑顔が咲く」お店でありたいと思います。元気になっ

て、心はずませていただけるような、より良い場所でありたいと思いますし、愛媛・松山が活性化することが何よりだと思います。

そのおこぼれをいただけるように、これからも、愛する愛媛・松山地域のためにも、より一層精進して参ります。



2014年卒業 小島 潤一郎

〔人文学科〕

このところ「刀剣乱舞」というゲームにより、刀剣に興味を持つ若い方（特に女性）が増えたようです。そのおかげか、話下手な私ですが色々なところでお話する機会をいただくことが増えました。どこかのコラムにも書いてありましたが以前、バブルの頃にも一度刀剣のブームがあったようです。その時の刀剣愛好者というのは大体中年男性でした。また刀剣購入理由は「持っていたらいつか購入時より高値になる」という考えからの方が多かったようで、当時本当に刀剣が好きな方はあまりいい顔をしていなかったと聞いています。しかし今回のブームは前回のブームとは大きく違います。ゲームがきっかけなので金銭的なことではなく刀剣自体に興味を持ち、刀剣の種類や、鑑賞の仕方、名刀にまつわる話などよく調べている方が多い印象です。刀は武器としてだけでなく、美術品として、日本の歴史や哲学を考える、伝えるものとしての側面を持っています。今回のブームのおかげで武器として以外の日本刀の顔が認知され、形のない文化財が保護されたように感じ、大変うれしく思いました。



イベントでの公開鍛錬の様子

講演をした際に必ず問われることがあるのですが、それらをいくつか紹介します。まずは「刀剣購入は許可が必要か」というものです。刀剣は購入しようとしているもの自体に登録証がついていれば購入可能です。登録証の交付は教育委員会であり、警察ではありません。「警察の交付でないから偽者だ、自分が登録をつけてきてやろう」と刀を騙し取られた例も聞きますので、ご注意ください。次に「倉庫や家の奥から刀剣類を発見してしまった場合の対処法」です。すぐそのまま警察に持って行ってしまう方もいらっしゃいますが、まずは近くの警察署の生活安全課に電話をかけましょう。そこでまず発見届けを行います。警察の方が実際発見した現場の写真を撮ったりします。その後持ち続けるのであれば県庁にて刀剣登録を、手放すのであれば警察に破棄を依頼します。刀剣登録は愛媛の場合、2ヶ月に一度の割合で行われています。担当は文化財保護課で



公開鍛錬の様子

す。手放す場合ですが、なまくらの場合もあれば、文化財になるような名刀の可能性もあります。あっさり捨てるのではなく誰か識者に相談いただけたらと思います。そういった伝がない場合、私で良ければ呼んでいただけたらと思います。まだまだ勉強中の身ではありますが、少しはお役に立てると思います。先日、同窓会提供講座にてお話をさせていただいた際のコメントカードを送っていただきました。「刀剣という自分には関係ない世界の話が聞けて……」という文がありました。お話しした後の質問や雑談でこういったことを聞きます。しかし実は家に刀剣類があることが後から発覚したという方が今まで何名かいらっしゃったので、調べてみることをおすすめします。

最後に愛媛大学構内の博物館についてです。順路通りに行くと後半、アザラシや昆虫を過ぎて考古学コーナーになります。土器を過ぎると鉄器のコーナーが出てきます。現在は鉄を砂鉄や鉄鉱石から造るということを意識せずに使っているせいか、「鉄を造る」ということにピンとこない方が多いようです。ここのコーナーではそういった普段意識しない部分の鉄に触れ合うことができます。鋳という、たたら製鉄で出来た鉄に触れる機会はそうはありません。そのケラを使って師匠と私の合作した脇差も展示してあります。駐車は正門から入って守衛さんに話せば出来ます。他のコーナーも知的好奇心をくすぐってくれる博物館です。入り口は少しわかり辛いですが、是非楽しんでみてください。



愛媛大学博物館に展示されている小島さん制作の刀

愛媛大学ホームカミングデイ 開催のお知らせ

日 時：2017年 11月11日(土) 13:00～19:00

13:00～ 同時開催イベント

施設見学(愛媛大学ミュージアムツアー、植物工場見学＝樽味)
留学生ポスターセッション(校友会館2Fサロン)、学生祭

15:00～ 式典(南加記念ホール)

司会：合田みゆき氏(フリーアナウンサー、教育学部卒)

[第1部] 15:00～

- ・学歌斉唱
- ・学長挨拶 大橋裕一学長
- ・国際連携の取組紹介 安川正貴国際連携推進機構長
- ・特別講演 三浦工業(株)代表取締役会長 高橋祐二氏(愛媛大学校友会会長)

[第2部] 16:35～

- ・卒業生(留学生)によるスピーチ「学生時代と今のわたし」
- ・留学生によるパフォーマンス：バンブーダンス

17:15～ 懇親会(大学会館1階)

愛媛大学オリジナルソーセージや植物工場で栽培されたトマトを使った料理、
留学生の出身国の料理の提供を予定

◎節目の卒業生に当日愛大ショップえみかで利用できる商品券(1,500円)をプレゼント

卒業10年目から5年ごとの節目の卒業生

昭和33年卒、38年卒、43年卒、48年卒、53年卒、58年卒、63年卒、平成5年卒、10年卒、
15年卒、20年卒※詳細・申込方法等は愛媛大学校友会HP (<http://koyu.ehime-u.jp/>) をご確認ください。

参加料無料

要事前申込

ホームカミングデイ開催時における同窓会等の実施経費補助について

各学部・学科、研究室、サークル等の同窓会イベントの実施補助を行います。

申請期間：平成29年10月2日(月)～10月31日(火)

※10人以上で行う同窓会イベントに対して、参加者1人あたり1,000円を上限(1イベントへの上限は
50,000円)とします。

(お問い合わせ) 愛媛大学総務部総務課総務チーム

電話：089-927-9014、E-mail: soumu@stu.ehime-u.ac.jp

愛媛大学校友会事務局

電話：089-927-8610、E-mail: office@koyu.ehime-u.jp

EHIME UNIVERSITY NEWS

旧制松山高等学校の外国人教員の子孫が
愛媛大学教育学部附属中学校講堂(章光堂)を訪問しました

2017.4.14(金)

平成29年4月14日(金)、旧制松山高等学校の教員であったアルフレッド・ボーナー氏のご子息であるヘルマン・ボーナー氏(82)一家が愛媛大学教育学部附属中学校講堂(章光堂)を訪問しました。

旧制松山高等学校は、1919(大正8)年に松山に設立された官立旧制高等学校であり、1949年の新制愛媛大学発足に伴い包括されました。

アルフレッド・ボーナー氏は、1922～1928年(大正11～昭和3年)頃に同校に在籍し、ドイツ語と音楽を教えていました。また、1927年には四国遍路を行い、ドイツ帰国後に四国遍路に関する書籍を発刊しており、現在でも貴重な資料となっています。

今回、ヘルマン・ボーナー氏は、父の足跡を辿るために来日し、かつて父が立っていたであろう、章光堂の舞台に立つことができました。そして、本学及び松山市に対し、このような機会を与えてくれたことに、感謝の意を表していました。



章光堂にて



ヘルマン・ボーナー氏

世界大学ランキング「The Times Higher Education」に
愛媛大学がランクインしました

本学は、イギリスのタイムズが発行している高等教育雑誌「ザ・タイムズ・ハイアー・エデュケーション(英: The Times Higher Education)」において、アジアにある大学ランキングで110～120位にランクされました。同順位として日本の千葉大学、金沢大学、慶應義塾大学がランキングされています。

法文同窓会チーム

2年連続

お城下リレーマラソンを疾走!

2016(平成28)年10月15日(土)、松山市堀之内で開催された

「マツヤマお城下リレーマラソン」に前年に続き法文同窓会チームが参加。今回は男性8名が1周1.5kmのコース28周をお揃いのTシャツで交代しながら見事完走し、277チーム中98位という好成績を収めました。

2017年は10月21日(土)、

9名でお城下を駆け抜ける予定です。

応援に来てくださいね!

42.195km

3時間19分40秒

98位/277チーム



快走メンバー。(前列左から)鳥生勉蔵、寒作典員(後列左から)応援に駆け付けた小池昭彦会長、大塚英俊、高田敏士、住友良光、永原和弥、山本高明、土井明人(敬称略)

Q&A

「会報及び同窓会に対するご意見・ご感想」でいただいたご意見について回答いたします。

Q 封筒に「愛媛大学～」と大きく書いてあるのが目立ちすぎるのですが。

A 封筒のロゴを見直して新しいデザインにしました。

Q 松山高等学校の寮歌のCDや章光堂、校門のDVDはありませんか?旧松高跡の情報なども掲載してほしい。
A 残念ながら、CDやDVDは発売されていないようです。学歌、寮歌は、愛媛大学工業会(工学部同窓会)近畿支部のホームページに紹介されており、一部はYouTube等で視聴可能です(<http://www.eu->kogyokai.jp/kinki/)。章光堂や校門に関する写真は、同窓会報18号の表紙で取り上げましたが、愛媛大学法文学部同窓会のホームページでもご覧いただけます。
(<http://koyu.ehime-u.jp/houbun/blog/>)

Q LINEやFacebookなど、SNSを活用したらもう少し軽い気持ちで同窓会に関わる方が増えるのではないのでしょうか。

A 今後、SNSの活用を含め、広報のあり方について検討していきたいと思っています。

Q 急逝された杉本耕一准教授について掲載されていませんが。

A 杉本先生は2016年4月21日に突然のご病気で逝去されましたが、ご家族のご意向により大学内への訃報通知がありませんでしたので、会報での掲載も見合わせました。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

Q 活字をもう少し肉太で大きくしてほしい。

A 活字のポイントを大きくすると、ページ数が増えるので難しいところですが、できる限り見やすくなるよう工夫していきたいと思います。

Q 懇親を目的としたものでなく、卒業生を対象とした講座や学びの場があるとうれしい。1人でも参加しやすく、いつ

A までも愛大とかかわりを持てる。日常を離れ学生に戻る。法文学部の提供講座や寄付科目は同窓会員であれば無料で聴講できます。また、愛媛大学公式ホームページの「愛媛大学で学びたい方へ」に研究生、科目等履修生及び聴講生の制度がありますので参照ください。他に、全都道府県に設置されている放送大学学習センターなどもあります。
(<http://www.ouj.ac.jp/hp/nyugaku/>)Q 卒業後50年経過し、愛大全体がどう変革しているか知りたい。他学部の動向なども簡単に紹介してほしい。
A 会報のEhime University Newsで紹介しています。また、愛媛大学公式ホームページの「大学案内」等にも様々な情報が掲載されています。

医学部附属病院は開院40周年を迎えました

2016.10.2(日)

昭和51年10月2日に開院した医学部附属病院は、平成28年10月2日(日)に開院40周年を迎えました。

医学部附属病院として、15診療科、320床でスタートした当院は、現在、24診療科、42の中央診療施設、644床と大きく発展し、約2,000人のスタッフが、地域に根ざす医療に取り組んでいます。

当院では、基本理念である「患者から学び、患者に還元する病院」のもと、「愛媛県民から信頼され愛される病院」、「患者さんの立場に立てる医療人の育成」、「愛媛で育ち、世界に羽ばたく医療の創造」を目標とし、実践してきました。

今後も患者さんの幸福を目指し、また、地域社会に貢献すべく、たゆまぬ努力と進化を続けていきたいと考えています。

今後ともよろしくお願いいたします。



三浦裕正病院長(右)と田淵典子看護部長(左)

「同期会やゼミ会をやりたいけど、住所が分からない!」という方

同窓会名簿の情報提供制度 をご存じですか?

同期会・ゼミ会を開くために同窓生と連絡を取りたい方に、同窓会名簿の「氏名・住所」に限り、情報を提供します。

「参加対象者、日時と場所」などを届け、会の案内以外に使用しない旨の誓約書を書いていただきます。終了後は開催報告を提出してください。同窓会報へ掲載します。詳細は下記事務局まで。

〒790-8577 松山市文京町3 愛媛大学法文学部内 法文学部同窓会事務局
Tel : 089-917-6376 Fax : 089-917-6476
E-Mail : aidai-houbun-dosokai@sings.jp

「会報及び同窓会に対するご意見・ご感想」でいただいたご意見について回答いたします。

Q&A

Q 上海に諸大学のOB会が多数ありますが、愛大はありますか?

A 北京市には愛媛大学校友会中国支部があります。校友会のホームページで紹介されており、中国国内のネットワーク作りを呼びかけていますのでご覧ください。

Q (http://koyu.ehime-u.jp/koyu/branch/chinese/) 人事異動は4月ですが、9月の会報発行では遅いのは?

A 会報の発行時期は、総会の案内や出席ハガキの締切りを考慮して9月となっています。人事異動についてはホームページで確認できます。

Q 九州地区の支部設立について、同窓会から世話人などの選出をお願いできないでしょうか?

A 支部設立について、同窓会本部では世話人をご紹介することは難しいのが現状です。お知りあいから輪を広げて設立準備を進め、役員になっていただける方を探されてはいかがでしょうか。

Q 卒業生の就職先のデータはありませんか?

A データは新しくありませんが、愛媛大学法文学部のホームページをご参照ください。旧・総合政策学科は「受験生の皆さんへ」→「卒業後の進路(就職・進学情報)」

(http://www.cpm.ehime-u.ac.jp/site/jukensei/syusyoku.html) で、旧・人文学科は「学部学科データ」→「進路状況」でご覧いただけます。(http://www21.h.ehime-u.ac.jp/course_situation.html)

Q 同年代が集まる会の企画はありませんか?

A 同窓会では企画していませんが、同窓会では、同期の方の情報を提供することができます。同窓会のHPの「規約」中、「情報提供規程」をご確認のうえ、会の参加対象者と会の予定日時及び場所の届けや会の案内以外に使用しない旨の誓約書をご提出いただければ、氏名及び住所に限り情報を提供いたします。

Q 訃報を載せて欲しい。

A ご遺族の方から訃報のお知らせがないと掲載できないのが現状です。

Q もっと濃い内容とボリュームアップした会報を期待しています。

A 期待していただき大変うれしいのですが、予算と編集人員の都合上、現在の会報で精一杯のところですので。ご要望に沿った記事を掲載できるように努力していきたいと思っていますので、返信ハガキのリクエストなども是非ご利用ください。

その他の記事も、愛媛大学のホームページでご覧いただけます。
http://www.ehime-u.ac.jp/news_topics/

「第7回愛媛大学ホームカミングデー」を開催しました

2016.11.12(土)

平成28年11月12日(土)、城北キャンパスで「第7回愛媛大学ホームカミングデー」を開催し、卒業生、学生及び教職員あわせて約290人が参加しました。

ホームカミングデーは、卒業生の皆様や教職員OBの方々にお越しいただき、大学の施設見学や同日に実施した学生祭にも参加いただくなど、母校への理解を深めていただくことを目的としています。

当日は、愛媛大学ミュージアム及び農学部樽味キャンパスの植物工場の施設見学等の同時開催イベントも行い、多くの方にご参加いただきました。

15時に開演した式典第1部では、学歌斉唱の後、大橋裕一学長による本学の近況報告と挨拶、西村勝志社会共創学部長による新学部紹介を行いました。

続いて、高橋治郎本学名誉教授による「地震と道後温泉－謎解き道後温泉史－」と題した特別講話を行いました。

第2部では、チアリーディング部の演技によるサークル紹介の後、大橋学長が所属する合唱団「ダンディーズ」と教育学部附属小学校コーラス部によるスペシャルコンサートがあり、最後は参加者全員で「花は咲く」を合唱し、ホールが一つとなりました。

式典後に大会館で実施した懇親会では、剣道部及び軟式野球部の代表者による学生団体活動報告を行いました。

また、下灘漁業組合によるハモ料理の提供、愛大オリジナルグッズ詰め合わせが当たる抽選会等を行い、大いに盛り上がりました。

今回参加いただいた卒業生には、県外在住の方も多く、参加者一同大いに親睦を深めることができました。



学歌斉唱(合唱団)



大橋学長挨拶



新学部紹介(西村社会共創学部長)



特別講話(高橋名誉教授)



サークル紹介(チアリーディング部)



スペシャルコンサート(ダンディーズ)



スペシャルコンサート(附属小学校コーラス部)



抽選会の様子

毛利修三県議(1967年文法卒)が愛媛県議会議長に就任



法文学部同窓会・四国支部幹事の毛利修三氏(73歳)が今年3月、愛媛県議会議長に就任されました。毛利さんは宇和島市吉田町の出身(宇和島市・北宇和郡選出)で当選5回、県議として長く活躍され、現在は自民党志士の会に所属しています。

毛利修三氏のコメント

第105代の議長に就任いたしました。歴史の重さを感じ、身の引き締まる思いです。今年は特にえひめ国体・えひめ大会が開催される愛媛にとって、記念すべき重要な年です。至りませんが、しっかり頑張っていきたいと思っています。母校も忘れません。

愛媛大学小太刀護身道部 SPOCHAN

げん た
峯松 拳大さん [人文学科日本史専攻3回生]



スポーツチャンバラ、「スポチャン」は、1971年 田邊哲人氏によって創められました。昔、ゲーム等おもちゃの無い時代、“ごっこ遊び”としてのチャンバラごっこは当時の子どもにとって、誰にでも覚えがあるのではないのでしょうか？ 男の子女の子も皆、棒切れや新聞紙をクルクル巻いた物を剣に見立て、チャンバラごっこをしたものです。子どもの遊びが原点の、古くて新しいスポーツです。今回は、キャプテンの峯松拳大さんにお話を伺いました。

Q. 愛大では、いつ頃から活動をされていますか？

A. 私が10代目のキャプテンなので10年以上にはなります。

Q. 愛媛大学の部活動についてお願いします。

A. 部員は、21名ですべて男子学生です。残念ながら、女性は、攻撃的なスポーツとされているのか、敬遠されているようです。院生や4回生が4人なので、来年の春には勧誘を頑張らねばと思っています。練習は月、木、土の週3回、19時から。木曜日には向かいの東雲小学校で練習しています。

Q. どのような用具が必要ですか？

A. 主に長さ1mの長剣と、60cmの小太刀を使います。長剣は柄の上の部分に空気入れ（自転車用）で空気を入れます。柄の硬い部分は危険なので禁じられていますが、打たれても痛くないですよ。他に棒、槍もあります。防御的なものとしてはプラスチックの面（プロテクター）、楯があります。あまり安くないのと、メーカーが一つしかない（Spochan）ので、ちょっとしんどいです。



楯、空気入れ、長剣、小太刀

Q. ルールは、剣道とは、どのように違いますか？

A. 剣道は、有効打撃部分が防具のある面と胴と小手で、脚への攻撃は禁止されています。が、スポチャンの場合は、面を被う必要はありますが、相手のどの部分に攻撃しても良く、脚への攻撃もOKで、7割勝負



試合風景

を決めています。ですのでフットワークを軽く、素早く動けることを心掛けて練習しています。

Q. 特に道着といったものはないんですか？

A. 基本、動きやすいトレーニングウェアが良いです。ユニホームを作っているチームもありますが、我がチームにはユニホームはありません。

Q. 試合形式を教えてください。

A. コートは7m四方で主審1人、副審2人の目視で判定されます。旗2本が挙がると勝ちとなります。団体戦は先鋒（小太刀）、次鋒（長剣）、大将（長剣と小太刀の二刀）の3人で行います。

Q. 大会にはどんなものがありますか？

A. 7月に西日本大会、10月に全日本の大会があります。えひめ国体にもデモンストレーションスポーツとして参加します。競技会も増え、世界的にも広がりを見せています。皆さんに、もっともっとスポチャンを知って貰いたいですね。

「スポチャンは、楽しいですか？」の質問に、皆さん異口同音に「楽しいです」との事でした。

練習を拝見しながら、剣道・柔道と同様に礼に始まり礼に終わるという、礼節を弁えた競技なのだなと感じました。部員の皆さんは、その礼儀正しく厳しい中にある楽しさを感じられている様子でした。

(インタビュー 廣田章子・和氣坂ハナミ)

Graduation Memories

平成28年度 法文学部卒業記念祝賀会 (2017.3.24)

卒業生数

◆総合政策学科
昼間主293名 夜間主73名 (計366名)
◆人文学科
昼間主136名 夜間主58名 (計194名)



加藤好文学部長挨拶



小池昭彦同窓会長挨拶



司会の後藤珠希さん
(H18年卒)



謝 辞
総合政策学科 宮森朱音さん



三木吉治元学長から三木奨学賞を受ける
人文学科 高畑早希さん



人文学科



総合政策学科



光信一宏評議員の
乾杯発声



締めの挨拶
竹内康博副学部長

関東支部 [東京章光会]



東京章光会の平成29年度第53回定期総会は7月8日(土)に東京・大手町の「サンケイプラザ」にて開催されました。

総会当日は、松山より法文学部長の加藤好文教授、法文学部同窓会本部の小池昭彦会長、西田和真副会長また、法文学部同窓会関西支部、同広島支部、同四国支部、他学部同窓会東京支部他より多数のご来賓にご出席いただき、45名の出席者をもって開催することができました。

今年は常連の方々が何名か出席できなかったのですが、西岡幹事役のご尽力により、昭和45年卒の方々が多数出席され、今回初めて出席された平成8年文学(哲学)卒の石井良治氏とともに総会を盛り上げて頂きました。

総会では、阿部会長の挨拶の後、平成28年度活動報告、平成29年度活動計画ならびに平成28年度決算報告・監査報告、平成29年度予算案につき、荒木副会長他から報告・説明があり、何れも満場一致で承認されました。

続いて大村事務局長補佐の総合司会のもと開催された懇親会では、加藤法文学部長(昭和50年卒)によるご挨拶及び「愛大基金」に関するご説明、小池同窓会長によるご挨拶及び乾杯のご発声の後、懇親に入りました。

「葛飾フィルハーモニー管弦楽団」に所属されているヴァイオリニスト・佐藤欣三氏(昭和61年卒)、武蔵野音大OGのヴァイオリニスト・荒川奈月様、東京音大OGのピアニスト・大津さやか様の3名による演奏会、浅野幹事長補佐、森原幹事役、芝崎幹事役の司会による恒例の福引抽選会、学歌斉唱などをはさみ、森脇副会長による閉会の辞をもって総会は盛会の内に幕を閉じました。

100周年を目指して来年度はより多くの会員の方々、幅広い年代の方々に参加して頂けるよう、役員、幹事一同努力していきたいと思っております。

東京章光会 事務局 西迫和則

東京章光会連絡先

Tel・Fax 03-3877-4677

(愛媛大学サテライトオフィス東京内)

関西支部 [にきたつ会]



にきたつ会は平成29年7月2日(日)に、大阪市のブリーゼ・プラザにおいて平成29年度定時総会並びに懇親会を開催いたしました。

気温35度を超える猛暑の中、ご来賓には法文学部長・加藤好文先生、同窓会本部・小池昭彦会長、東京章光会、四国支部、広島支部のご代表をはじめ、今回から校友会近畿支部の役員の方々にもご出席を賜り、また会員の皆様方にも多数ご出席いただき盛大に開催することができました。本当に有り難うございました。

定時総会は、決議事項報告の後、盛大な拍手で原案通り承認いただきました。

メインイベントの懇親会は、御挨拶をかねて、加藤学部長から新法文学部や大学の現状や今後の取り組み等について、小池会長からはこれからの同窓会の活性化への取り組み等についてお話をいただきました。

その後、出席者の自己紹介や11月19日(日)開催予定のウォーキングについての説明等が行われ、総会開始から予定の3時間は瞬く間に過ぎていきました。

今年は、講演会を行わず、懇親会での自己紹介に重点を置き、皆様方の一体感を少しでも醸成できればと考えた次第です。ご出席いただいた皆さんに愛大法文学部の連帯感を感じていただけたでしょうか？

最後ににきたつ会からご報告とお願いをいたします。

1つ目は、前回から愛媛県産のお土産を用意させていただきましたが、好評を頂きまして今年もお土産を用意できました。ご家族でご賞味いただけたでしょうか？

2つ目は、会員の皆様にお願いがございます。ご存知のように同窓会活動は停滞気味で推移しています。できれば今年度の終わりまでに役員を改選して、さらに活性化を図りたいと考えております。ご協力いただける方を募っていますので、奮って応募してください。下記の連絡先または現在の役員・幹事まで11月末までにご連絡いただければ幸いです。

今後とも、一人でも多くの会員の方が、一人でも多くのお友達をお誘い合わせのうえご出席いただきますようご支援・ご指導をお願いいたします。

11月のウォーキング、来年の定時総会でお会いできることを楽しみにしています。

にきたつ会 幹事一同

関西にきたつ会連絡先

会長 岡本正明

Tel 0742-34-0190 E-mail: bookhill@nifty.com

または、ご存知の役員・幹事まで

広島支部



広島支部では第12回総会を平成28年11月5日(土)『クルージング船銀河』にて42名の参加者で開催しました。

当日は大学から加藤学部長、同窓会本部から小池会長、東京章光会から西迫事務局長、関西にきたつ会から岡本会長、四国支部から宇都宮支部長が駆けつけてくれました。また、卓話については加藤学部長から、大学間競争の中で、愛媛大学も産業界と連携するなど地域に根ざした教育の在り方を目指している状況をご説明いただきました。

その後の懇親会においては、昭和37年卒谷井先輩による乾杯の後、厳島神社鳥居前のデッキタイムで写真を撮りあったり、篠笛の演奏を楽しんだり、今回ご都合で参加できなかった方々からのメッセージを配布させていただいたりして、とても楽しい会となりました。

最後の締めくくりでは、岡田支部長の音頭にて『愛媛大学学歌』、逍遙歌『若葉の古城』『三光寮を歌う』を声高らかに歌い上げた後、昭和39年卒長尾先輩の中締めで、名残を惜しみつつ、来年もまたお会いしましょうと散会となりました。

世代を超えた交流を通じて、より同窓会の意義を高めていただいたように思います。

今年度は、下記の日程で昼食をとりながら開催する予定です。

日 時: 平成29年10月14日(土) 11:30~14:30

場 所: 広島ガーデンパレス(広島駅北口から徒歩5分)

広島支部では法文学部だけでなく、工学部や農学部・教育学部・理学部などの出身者も参加されていますので、みなさまお誘いあわせのうえ多数のご参加をお待ちしています。

役 員

顧問	竹本 義昌	(昭和33年文理学部 人文乙卒)
顧問	楠本 淳	(昭和35年文理学部 人文乙卒)
支部長	岡田 禎之	(昭和40年文理学部 人文乙卒)
副支部長	難波 宜久	(昭和62年法文学部 法 学 卒)
事務局長	品川 瑞	(平成 5 年法文学部 法 学 卒)
幹 事	村上 道機	(昭和43年文理学部 人文乙卒)
幹 事	梶原 勝	(昭和63年法文学部 経 済 卒)
幹 事	松本 亜紀	(平成 5 年法文学部 法 学 卒)

広島支部連絡先

あさがお司法書士事務所内 品川 082-208-5886

四国支部



第11回 総会報告

平成28年11月12日(土)にピュアフル松山(旧勤労会館)で開催、初めての土曜日でした。総会の前に、眞鍋八州雄氏から「75歳の大学院生」と題して記念講演を聞きました。また平成29年4月8日(土)にすし丸本店でお花見を開催するとともに、他支部との交流を深めました。

第12回 四国支部総会のご案内

日 時: 平成29年11月10日(金) 18:30~

場 所: ピュアフル松山
(旧勤労会館、JR松山駅徒歩2分)

Tel 089-945-6011

会 費 5,000円(懇親会費)

開場18:00~、懇親会18:50~、終了20:30予定

*記念講演会は中止し、自己紹介・ビンゴゲームなどを予定しています。

第8回 四国支部お花見のご案内

日 時: 平成30年4月7日(土) 13:00~(2時間予定)

場 所: すし丸本店(松山市二番町2-3-2)
大街道二浪証券近く

Tel 089-941-0447

会 費: 3,000円

総会・お花見は全国の同窓会関係者家族なども参加可能です。

平成30年は3年に1度の本部同窓会開催年ですので、総会は11月ごろ本部との共催予定です。来年の会報をお楽しみにしてください。



四国支部事務局連絡先

副支部長 玉井周平 携帯 090-8973-7650

E-Mail: tousui78@yahoo.co.jp

支部紹介 関西にきたつ会

恒例の歴史探訪ウォーキング

にきたつに ふなのりせんときまでは しおもかないぬ いまはこきいてな 額田王

にきたつ会は1962(昭和37)年に文理学部同窓会関西支部として発足し、その後、学部改組によって理学部と法文学部に分かれました。現在は文理学部人文学科(文・法・経)と法文学部の卒業生で活動を行っています。途中、休会期間もありましたが、不死鳥のごとく蘇り、今年55周年を迎えました。現在の活動をご紹介します。

平成29年度 定期総会・懇親会

日 時：平成29年7月2日(日) 12:00～
場 所：ブリーゼブラザ(大阪市北区梅田)
人 数：38名

大阪・梅田駅に近いブリーゼブラザ8階で開催された関西にきたつ会の平成29年度定期総会・懇親会。岡本会長挨拶の後、1年間の活動報告、来年度の活動計画、



関西にきたつ会定期総会

28年度の収支報告と貸借対照表が承認され、テラスに移動しての記念撮影(p.28参照)の後、会場に戻りお楽しみの懇親会が始まりました。来賓代表挨拶の後にはしばらく渴いたのだとお腹を満たし、参加者の自己紹介。皆さん、近況報告や支部活動への期待をスピーチします。11月19日(日)に予定されている万葉ウォーキングの告知があり、最後は学歌と『三光寮を歌ふ』を全員で合唱して3時間の楽しいひとときを締めくくりました。



岡本正明にきたつ会会長

関西にきたつ会の設立者で長年会長を務め、校友会近畿支部の立ち上げにも尽力した後藤幹郎さんに、設立当時のことなどお聞きしました。



後藤 幹郎さん

関西にきたつ会元会長
現幹事、1960年卒

後藤さんが愛媛大学に通っていたころは、学生運動が盛んでした。大学進学率もまだ低い時代で、周りは経済的に豊かな家庭の人が多かったようです。国の支援で高等教育を受けているのに授業をボイコットすることに違和感があり、「自分のメシくらい自分で稼がないと」と思っていたそうです。卒業後、住友信託

銀行に就職し、大阪の調査部に所属しました。「若い頃は世間知らずでしたが、調査部でいろいろなことを勉強しました」と語ります。関西にきたつ会を設立した当初はあまり人が集まらず苦労されたとか。文理、法文学部出身の関西在住者に声をかけ、徐々に盛り上がってきました。今回の総会出席者の中にも、後藤さんに誘われて来るようになった方が結構いらっしゃいました。金融関係という仕事柄、人とのつながりが同窓会活動にも活かされたようです。校友会近畿支部の立ち上げ時にもきたつ会が貢献、後藤さんは初代支部長も務めました。

総会出席者にインタビュー



吉富 太郎さん

会計幹事、働まちづくり奈良
1998年卒

応援団に所属していました。愛大応援団が復活して女子までいることをFacebookで知ってびっくりしています。関西に同期がいなくて、この会でも一番年下で寂しいですが、子育てが落ち着いたら同世代も出てきてくれるのではないかと期待しています。



樋掛 誠也さん

星光ビル管理(株)
1983年卒

仕事の関係で東京と大阪を行ったり来たりしています。東京の支部総会は2度参加したことがありますが、関西は初めてです。学生時代は愛法会で活動していましたが、その時のメンバーで飲むこともあります。時間があれば来年も参加します。



米田 進さん

京都府庁
1975年卒

愛媛大学から初めて京都府の職員に採用されました。現在は4名で、1回だけ集まったことがあります。愛大には医学部ができたころに通っていたのですが、大学のある街は独特の雰囲気がありますね。松山は文学的で温かく住みやすい街だと思います。



澤井 達夫さん

にきたつ会副会長
1972年卒

私のころは大学紛争で、教養の1年半は学校に行っていませんでした。専門は三島先生で勉強よりも釣りやキャンプ、石鎚登山などが記憶に残っています。同窓会の参加者が減っていますが、若い人も年齢を重ねてくると寂しくなってきたのではないのでしょうか。



前田 拓さん

にきたつ会幹事
1970年卒

出身が八幡浜なので、年1回くらい帰省しています。日本生命に就職し、全国を転々としていましたが、家内の実家がある大阪に家を建てて住んでいます。同級生と集まるようになったのはリタイアしてからです。肩書きが取れて、フラットに会えるようになりました。

歴史を廻る

「歴史探訪ウォーク」

飛鳥～奈良時代を中心とした寺社仏閣や古墳を巡るウォーキングを、毎年秋に開催しています。参加者は毎回10～15名ほどで、飛鳥・奈良の歴史を巡りながら会員同士の親睦を深めています。

▶第1回 2011(平成23)年4月9日

大和三山めぐり(耳成山・香具山・畝傍山)

「香具山は 畝傍を愛しと耳成と 相争いき神代より かくにあるらし いにしえも然にあれこそ うつせみも妻を争うらし」

中大兄皇子

▶第2回 2011(平成23)年12月17日

吉野山 金峯山寺蔵王堂周辺

南朝の後醍醐天皇が吉野に逃れ吉野朝宮を構えた。また、源頼朝に追われた義経と静御前が別れを惜しんだ場所として、また豊臣秀吉の柵外れの花見の場所としても有名。

▶第3回 2013(平成25)年4月7日

古代大和朝廷発祥の地

大神神社・箸墓古墳・卑弥呼の墓と言われる巻向古墳・景行天皇陵・崇神天皇陵・長岳寺等を「山辺の道」に沿って散策(三輪から柳本へ)

▶第4回 2013(平成25)年11月17日

談山神社から明日香石舞台

談山神社とは中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我入鹿の撥乱反正の談合をしたところと言われ、「大化の改新」へとつながる。石舞台は蘇我馬子の墓と伝えられる。

▶第5回 2014(平成26)年11月16日

大野寺から室生寺

大野寺は役行者が弘法大師の開基と伝えられる。宇陀川の対岸には大磨崖仏が線刻されている。室生寺は女人高野としても有名で、金堂・五重塔・本堂の国宝建造物を中心に御影堂が散在する。初夏のシャクナゲの花・秋の紅葉は素晴らしい。

▶第6回 2015(平成27)年11月15日

久米寺・檀原神宮・神武陵・綏靖陵・環濠集落今井町

久米の仙人の寺・神武天皇と皇后をお祭りする檀原神宮と御陵をめぐり。今井町は戦国時代に一向宗が寺内町を形成し自衛上堀をめぐらせ環濠集落とした。

▶第7回 2016(平成28)年11月13日

紅葉の二上山麓・石光寺・傘堂・鳥谷口古墳・当麻寺

二上山の雄岳には大津皇子を葬った墓、石光寺・当麻寺には中将姫の伝説がある。

【今後の予定】

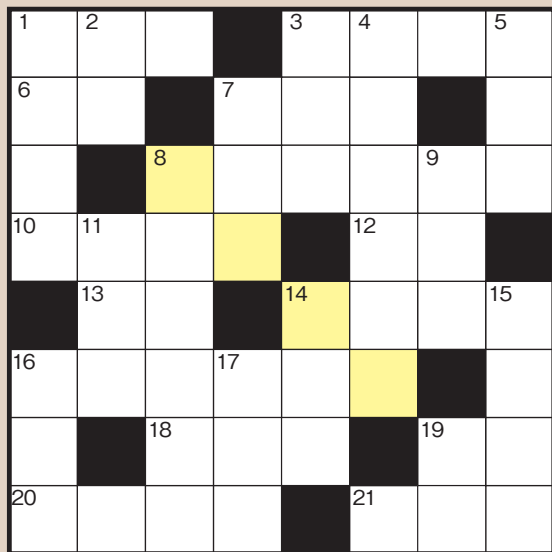
▶第8回 2017(平成29)年11月19日

薬師寺・唐招提寺・垂仁天皇陵・喜光寺・菅原天満宮・西大寺
唐招提寺の金堂は現存する最大の天平建築。希望者には昼食後、平城京南大門・大極殿へ案内予定。(連絡先はp.28参照)



問題

クロスワードの色がついた部分の文字を並べ替え、愛媛県に
関係のあるキャラクターの名前を教えてください。



(出題：H16卒・矢野彰大氏)

●ヨコのかぎ

- ① 同業者組合
- ③ 旅客機
- ⑥ あなた
- ⑦ エジプト十字
- ⑧ 『ゲゲゲの鬼太郎』の原作者
- ⑩ 鬼の灯と書く植物
- ⑫ 建物内部の下側の平面
- ⑬ 刈り整えられた草原
- ⑭ ○○○○に水
- ⑯ 太陽の光
- ⑰ こんなクローバーは好運の証とされます
- ⑱ 慢性的な食糧不足
- ⑳ 腹心にもたえられる身体の一部
- ㉑ 紅玉

【解答】

応募方法

同封の応募ハガキに正解をご記入の上、**2017年12月15日**までに本会あてお送りください。

賞品

図書カード1,000円分 20人

第20号 パズルの答え

正解：ウンシュウミカン(温州みかん、温州蜜柑)



お詫びと訂正

第20号パズルのヨコのかぎ 12.「物理・科学・生物・地学」は「物理・化学・生物・地学」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

前回パズル当選者(敬称略)

解答者 326人中、正解者 323人

図書カード1,000円分 (20人)

高野美代子(S30)、大谷 正和(S36)、佐野 章雲(S48)、板橋 俊夫(S49)
奥田 幸男(S52)、野本真奈美(S54)、明石 由美(S61)、大西 直純(H1)
後藤真由美(H4)、大友 勇人(H9)、河野 純子(H12)、西原 千景(H14)
馬木 精吾(H16)、濱田 武範(H19)、宮武 由季(H21)、谷 康太郎(H23)
野々村哲也(H24)、近藤 仁美(H25)、武田 京子(H26)、天田沙斗子(H27)

主なリクエスト

●「大学内の写真がもっと見たい」との複数のリクエストがありました。
●サークル紹介のコーナーを設けてはどうか。
●愛大の周辺の様子(街とか)をもっと見たいです。
●大学生活の実際を知りたい。
●会員、支部会の近況を多くして欲しい。
●昔の先生の消息などあればOBはうれしいかも。
●表紙写真はインパクトのある愛媛の風景写真にしては。
●西暦の他、元号も表記していただくと、換算の手間が省けます。

感想

お褒めやお礼、励ましの言葉をたくさんいただきました。

●「同窓会名簿を作って欲しい」との複数のご意見がありました。
●法文学部がどんどん進化しているのを感じます。松山に法文学部がほとんどないので、会報は母校を知る大切な情報源です。
●会報で大学の様子がわかり、とてもなつかしくて読んでいて楽しいです。
●きちんと運営してくださっていて素晴らしいです。
●懐かしく、同級生に連絡を取りたくなりました。
●いつも拝見しています。卒業生の活躍を見ることができて、頼もしく思っております。
●学部の現況と昔(私の在学の頃)の記事を毎回楽しく拝読させていただいております。
●今回の表紙はとてもきれいです。枝垂れ桜の四季はその都度寄って感嘆したり、桜を励ましたりしています。その桜の姿にはほれほれします。
●いつも楽しい会報ありがとうございます。法文学部で出会った主人といつも楽しみに読んでます。長女が今、総政2回生でお世話になってます。法文愛がとまりません。

パズル等の解答にいただいた個人情報、同窓会事務局が適切に管理し、賞品の発送および名簿データの更新にのみ使用いたします。

役に立った記事、面白かった記事ランキング

1位は「マイナンバー制度の基礎知識」(108人)、2位は「学部長インタビュー」(79人)、3位は「卒業生から」(63人)、4位は「栗田禎堂の生涯」(60人)、5位は「研究室紹介」(42人)。以下、在校生インタビュー(26)、同期会報告(20)、提供講座報告・感想(16)、支部だより(15)、EHIME UNIVERSITY NEWS(12)、パズル(11)、退職教員/人事異動(9)、表紙(7)、支部紹介(7)、卒業記念祝賀会(6)など。

【編集後記】

- 今年も酷暑の連続。思い起こせば、自由業への転出に際し「365日アルビノスト」の夢を描きましたが、昔は健康を考えて山登りをしようが、今は暑いから健康を考えて山登りは控えるようになってしまった今日この頃です。(西田)
- 編集委員会には途中参加で、あまりお役に立てませんでした。来年は法文学部創立50周年記念事業とからめて、もう少し貢献したいと思います。(松本)
- 4月23日(日)に突然激しい目眩に襲われ、左視床に脳内出血がありました。治療とリハビリに専念した結果、片麻痺と呂律困難は残るものの、とても元気になりました。ご迷惑をおかけしましたが、徐々に復帰していきます。(久保)
- 暑いですが。これを書いている今は大暑。七十二候言えば「大雨時行(たいうときどきにふる)」。まさにゲリラ豪雨で各地に被害も出ております。みなさまお気をつけて。(野崎)
- 人生の節目を迎え、思い切って好きな車に乗り換えました。感謝と希望を携えリスタートです(笑)。(小林)
- 同窓会誌の仕事に関わり、50年ぶりに卒業式に参列したり、現役大学生の部活動取材したりしました。停滞気味の日常生活へのすこい石づてでした。感謝。(廣田)
- 『同窓会報』編集、初めての参加でした。編集委員の熱い思いが、同窓生の皆様に伝わります様に。(和氣坂)
- この秋に引越しをします。海に臨む古民家に移り住んで10年。離れるのは名残惜しいのですが、老いゆく両親の介護優先です。(鳥生)
- 何十年かぶりに万年筆を買いました。高価なものではありませんが、インク漏れもなく、書き味も良いです。ここにも技術の進歩ありですね。(戒能)

発行 2017年9月
発行 愛媛大学法文学部同窓会
編集 愛媛大学法文学部同窓会編集委員会
事務局所在地 〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内
TEL 089-917-6376 FAX 089-917-6476
印刷 アマノ印刷